

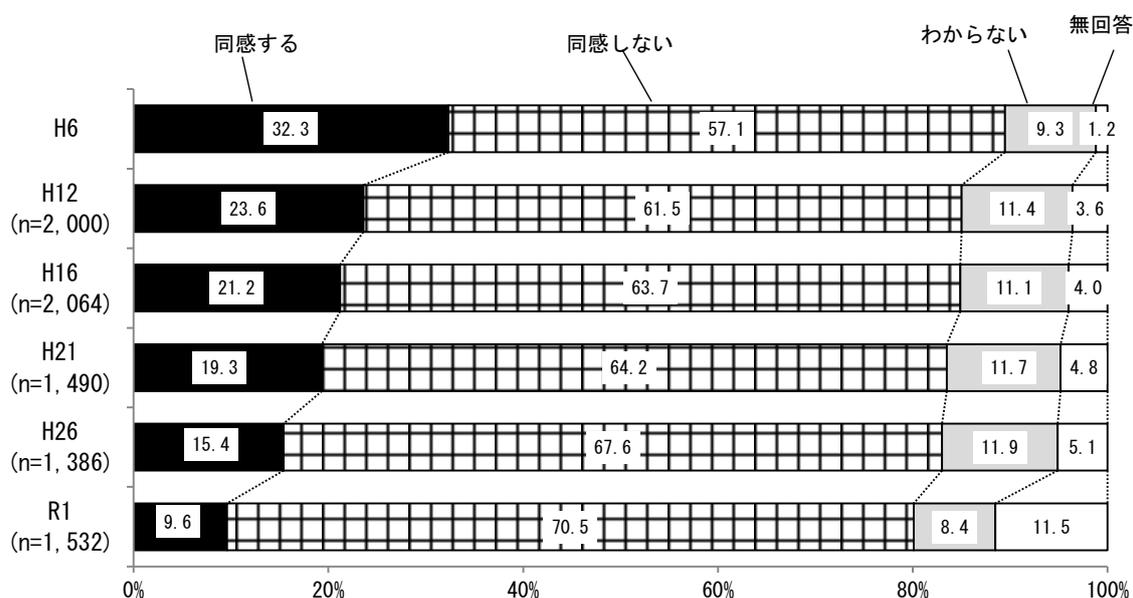
Ⅱ 調査結果

1 男女の役割分担意識や家庭観について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。
【○印は1つ】

【図表 1-1 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識】



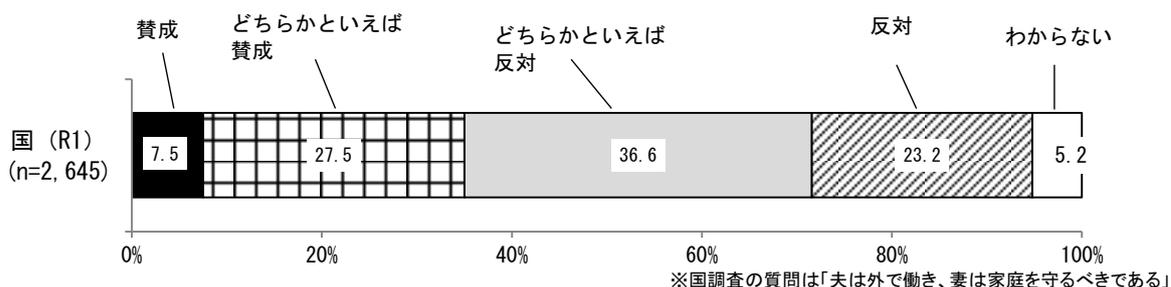
◆ 「同意しない」が7割を超え、前回よりも上昇

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同意しない」は70.5%と多数を占めている。「同意する」は9.6%とH6年調査の約3分の1に低下している。

「同意しない」は調査年ごとに上昇傾向にあり、H6年調査と比べると、13.4ポイント上昇している。

国調査（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合）と比べると、「同意する」が低くなっている。

【図表 1-2 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識（国調査の結果）】



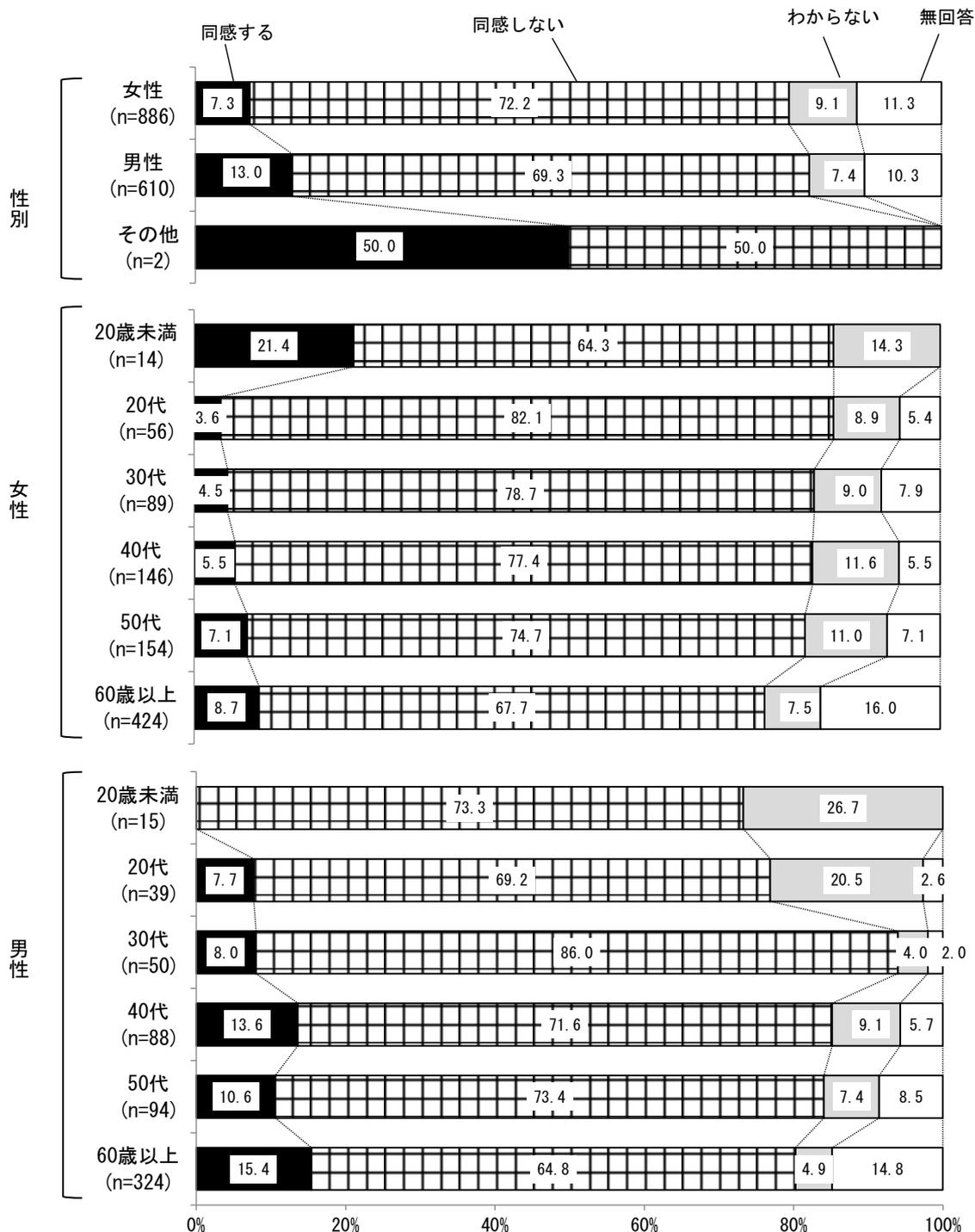
※国調査は、内閣府がR1年9月に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、「同感しない」は女性(72.2%)が男性(69.3%)を2.9ポイント上回っている。一方、「同感する」は男性(13.0%)が女性(7.3%)を5.7ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、女性は20歳未満及び60歳以上を除き、7割超になっている。男性は30代で「同感しない」が最も高くなっている。

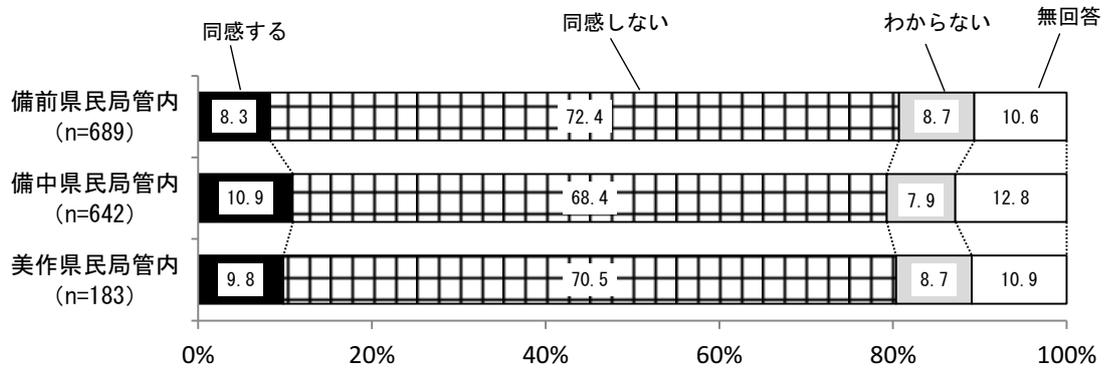
【図表 1-3 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で「同感しない」は7割前後となり、「同感する」は1割程度となっている。

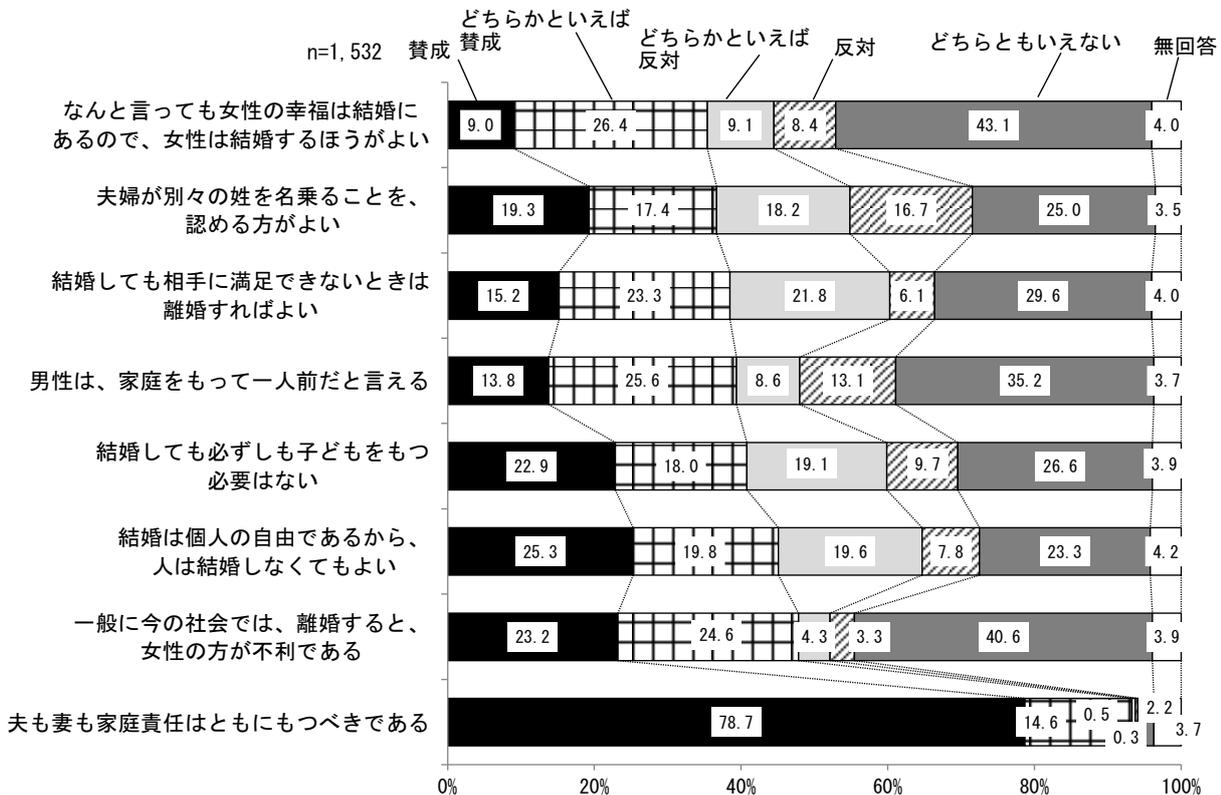
【図表 1-4 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識（地域別）】



(2) 結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方

問2 結婚や離婚、夫婦別姓等についてあなたはどのようにお考えですか。それぞれについてあなたのお考えにもっとも近いものについてお答えください。【○印はそれぞれ1つ】

【図表 2-1 結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方】



◆「夫も妻も家庭責任はともにもつべきである」は93.3%が『賛成』

「夫も妻も家庭責任はともにもつべきである」について、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合）は93.3%と多数を占めている。また、「一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である」や「結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい」なども『賛成』が5割程度を占めている。

一方、「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」は、『反対』（「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合）が3割前後となっている。

「夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい」や「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」は、『賛成』、『反対』、「どちらともいえない」に意見が分かれている。

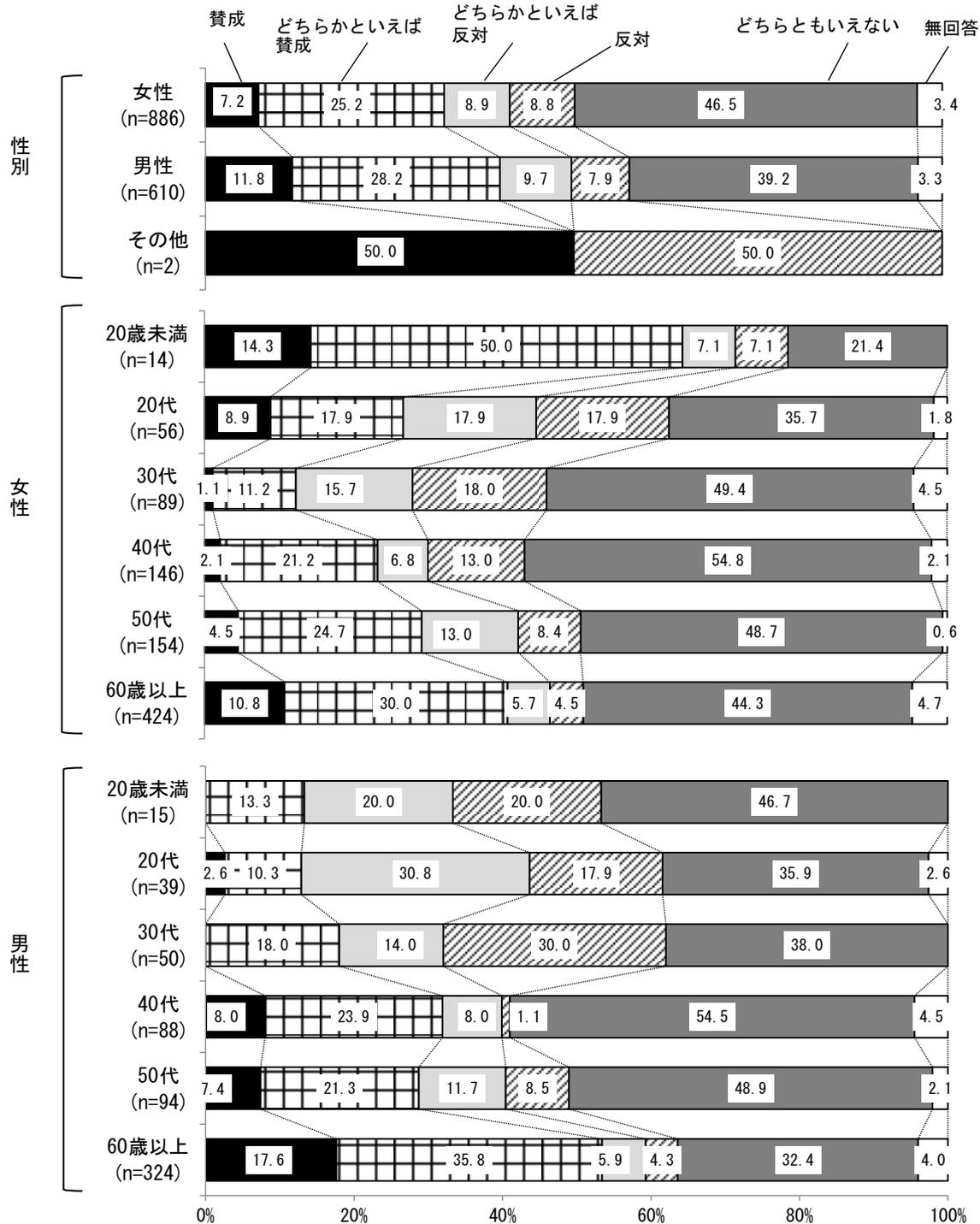
ア「なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『反対』は男女ともに2割以下と低くなっている。

性・年齢別にみると、女性は60歳以上で『賛成』の割合が高まり4割を超え、男性は40代から『賛成』の割合が高くなり、60歳以上で5割を超えている。

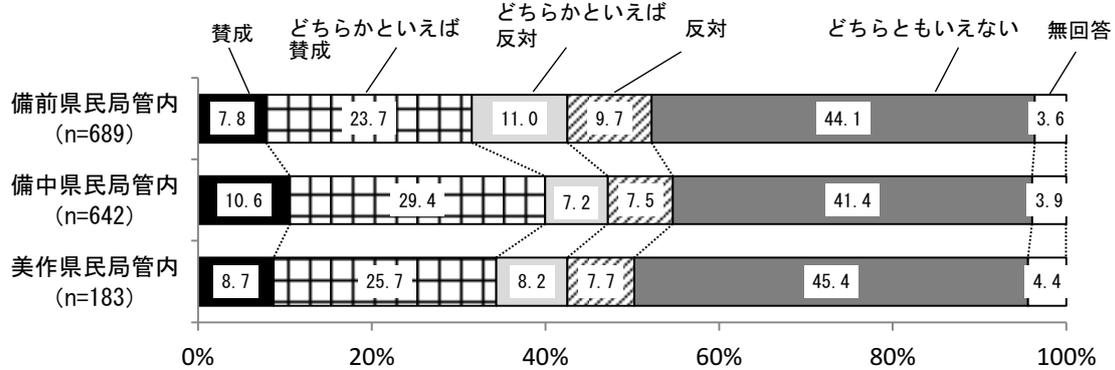
【図表 2-1-1 なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で、『賛成』は3割を超えている。また、備中県民局管内では『賛成』が40.0%と他の地域と比べ、高くなっている。

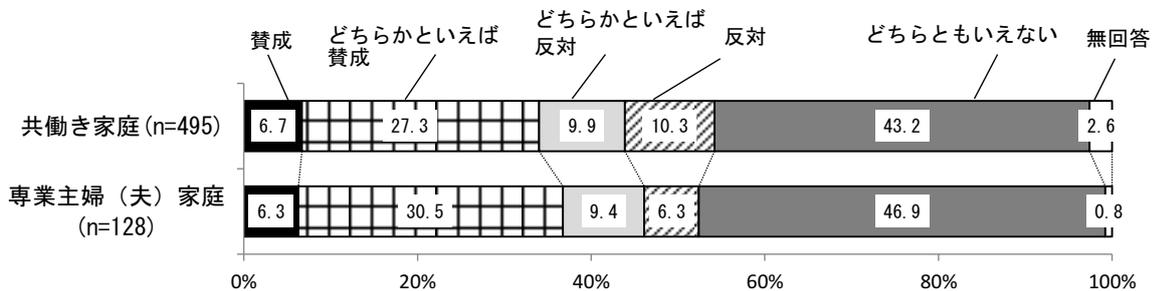
【図表 2-1-2 なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい（地域別）】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭・専業主婦（夫）家庭ともに『賛成』3割半ばで大きな差がみられないが、『反対』は共働き家庭は専業主婦（夫）家庭より4.5ポイント高くなっている。

【図表 2-1-3 なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい（就労状況別）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『賛成』の割合は年々低下しており、『反対』の割合は上昇している。『賛成』は、H12年調査より20.8ポイント低下している。

【図表 2-1-4 なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい（過去の調査との比較）】

(単位: %)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	22.9	33.3	34.0	5.0	3.7	56.2	8.7
H16	21.8	31.3	37.3	3.5	4.4	53.1	7.9
H21	18.6	32.5	38.3	5.1	4.6	51.1	9.7
H26	16.9	32.3	37.7	5.6	6.6	49.2	12.1
R1	9.0	26.4	43.1	9.1	8.4	35.4	17.5

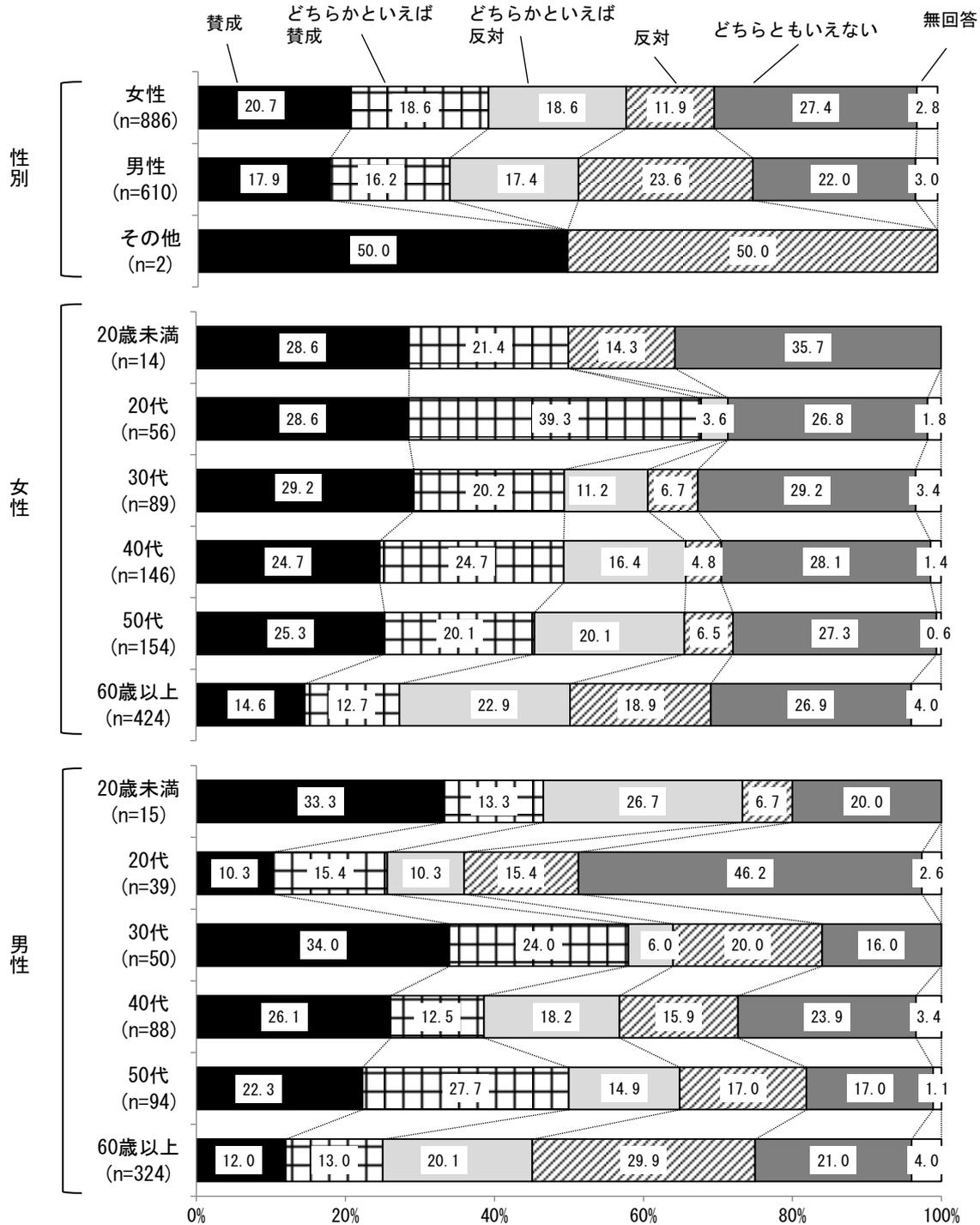
※図表 2-1-4 は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

イ「夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『反対』は男性（41.0%）が女性（30.5%）を10.5ポイント上回っている。
 性・年齢別にみると、男女とも60歳以上では『賛成』より『反対』の割合が高くなっている。

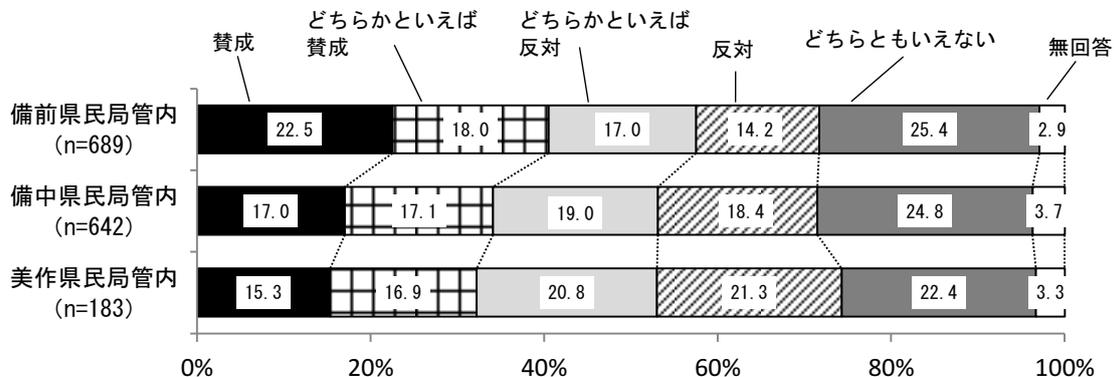
【図表 2-2-1 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい（性別、性・年齢別）】



<地域別>

備前県民局管内は他の地域と比べ、『反対』(31.2%)が低く、『賛成』(40.5%)が高くなっている。

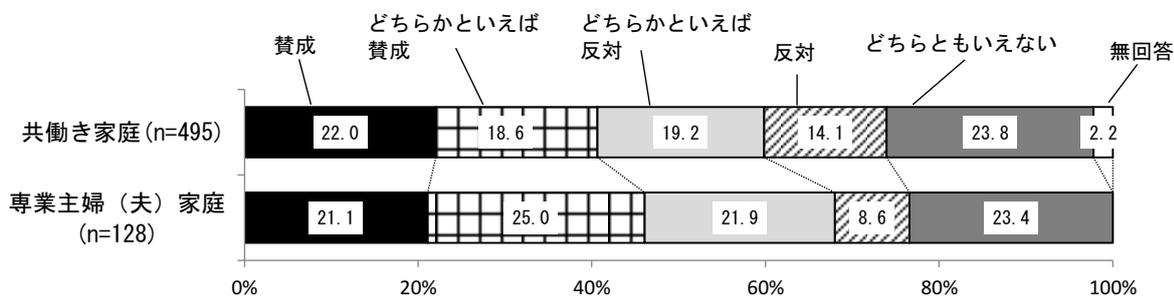
【図表 2-2-2 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(地域別)】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭は専業主婦(夫)家庭と比べて『賛成』が5.5ポイント低くなっている。

【図表 2-2-3 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(就労状況別)】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『賛成』の割合は上昇傾向にあり、『反対』の割合は減少している。

【図表 2-2-4 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認めるほうがよい(過去の調査との比較)】

(単位: %)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	13.4	10.3	22.2	19.0	33.6	23.7	52.6
H16	14.7	10.6	21.3	18.7	33.0	25.3	51.7
H21	13.0	12.1	23.3	18.9	31.3	25.2	50.1
H26	13.8	13.6	25.0	19.6	27.3	27.3	46.8
R1	19.3	17.4	25.0	18.2	16.7	36.7	34.9

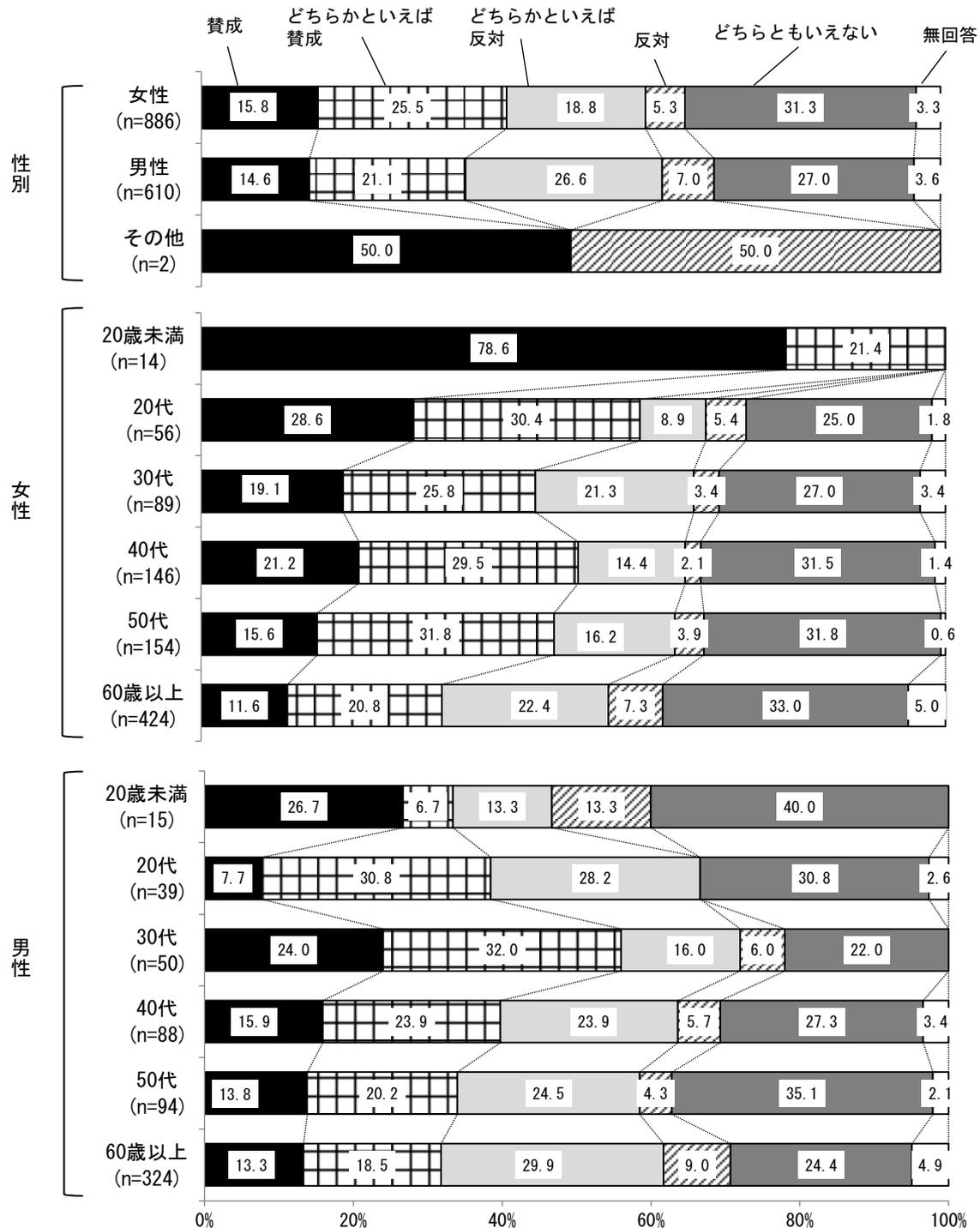
※図表 2-2-4 は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

ウ「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『反対』は男性（33.6%）が女性（24.1%）を9.5ポイント上回っている。
 性・年齢別にみると、女性20歳未満、男性30代で『賛成』の割合が最も高くなっている。

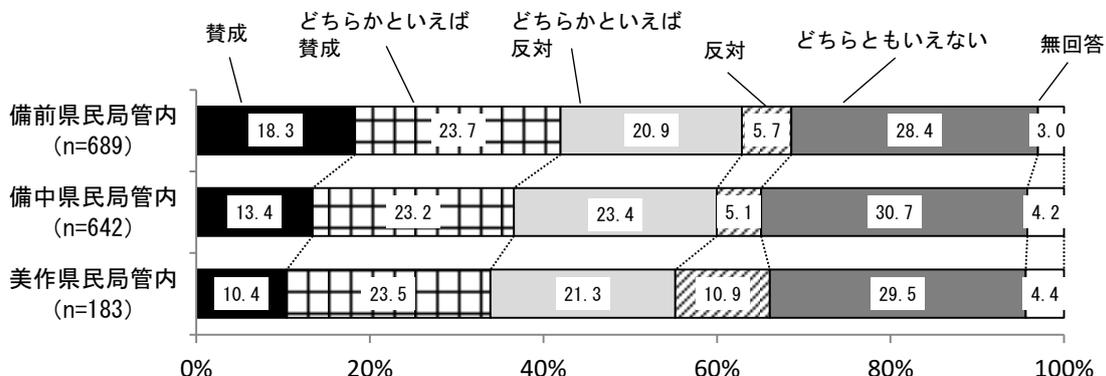
【図表 2-3-1 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で、『反対』は3割程度となっている。備前県民局管内は『賛成』(42.0%)が他の地域と比べ、高くなっている。

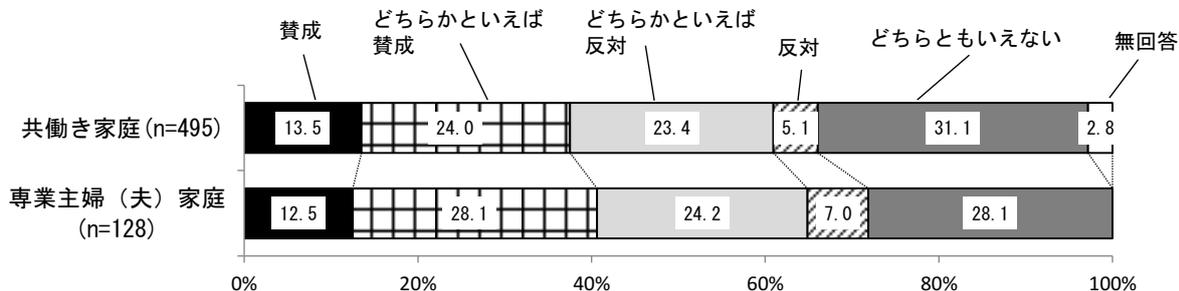
【図表 2-3-2 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(地域別)】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭・専業主婦(夫)家庭ともに『賛成』はおよそ4割程度、『反対』はおよそ3割程度となっており、大きな差はみられない。

【図表 2-3-3 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(就労状況別)】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較してみると、『賛成』の割合はH26年調査までは大きな差が見られなかったが、今回調査では38.5%と10ポイント程度上昇しており、『賛成』が『反対』を上回っている。

【図表 2-3-4 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(過去の調査との比較)】

(単位: %)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	15.1	15.7	27.5	25.0	14.6	30.8	39.6
H16	14.2	16.6	27.5	24.4	15.2	30.8	39.6
H21	12.1	17.8	25.8	27.7	15.1	29.9	42.8
H26	12.7	16.1	29.1	26.6	14.4	28.8	41.0
R1	15.2	23.3	29.6	21.8	6.1	38.5	27.9

※図表 2-3-4 は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

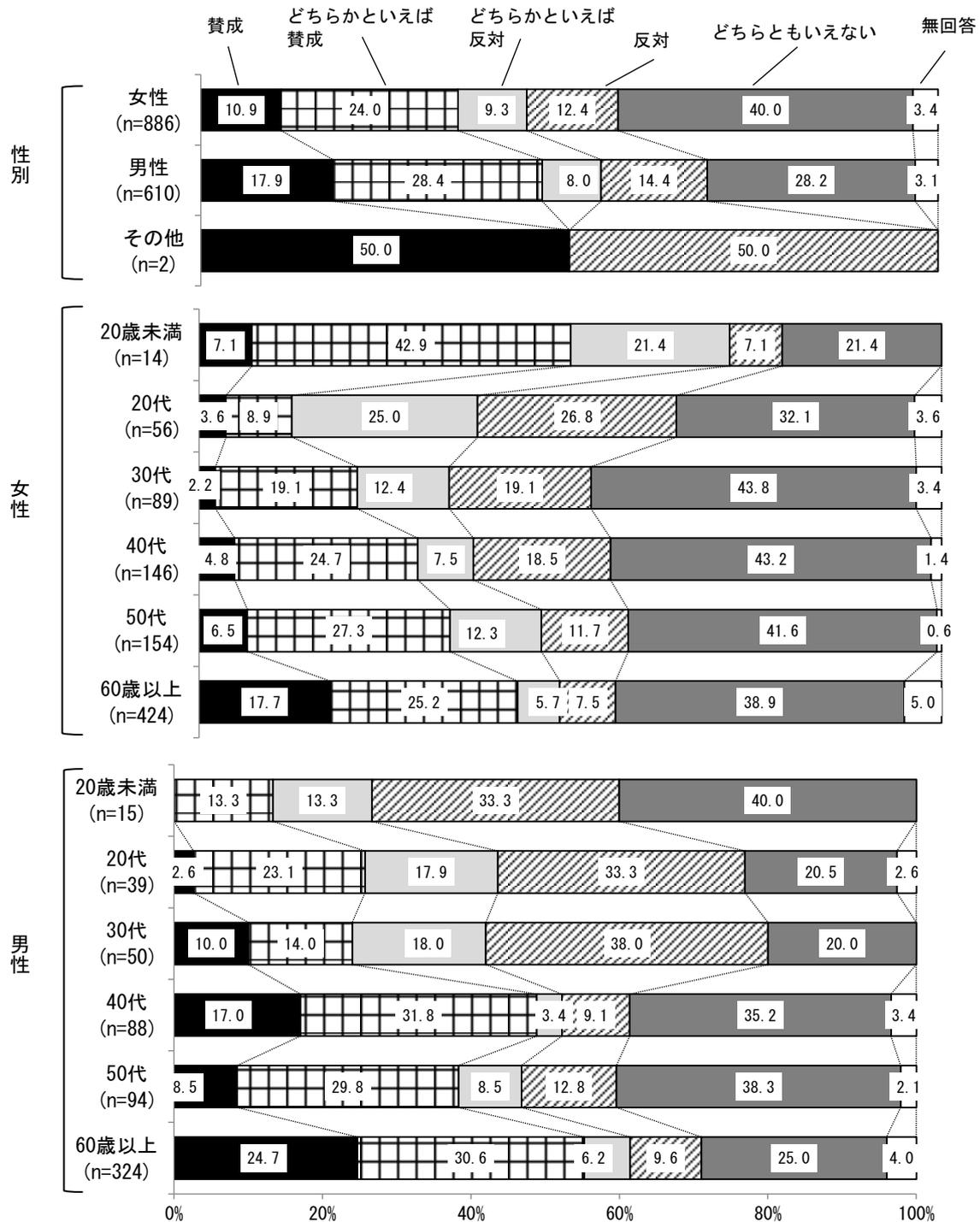
エ「男性は、家庭を持って一人前だと言える」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『賛成』は男性（46.3%）が女性を（34.9%）を11.4ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、女性は、年齢が上がるにつれて『賛成』の割合が高くなる傾向にある。男性は、60歳以上（55.3%）で『賛成』が最も高くなっている。

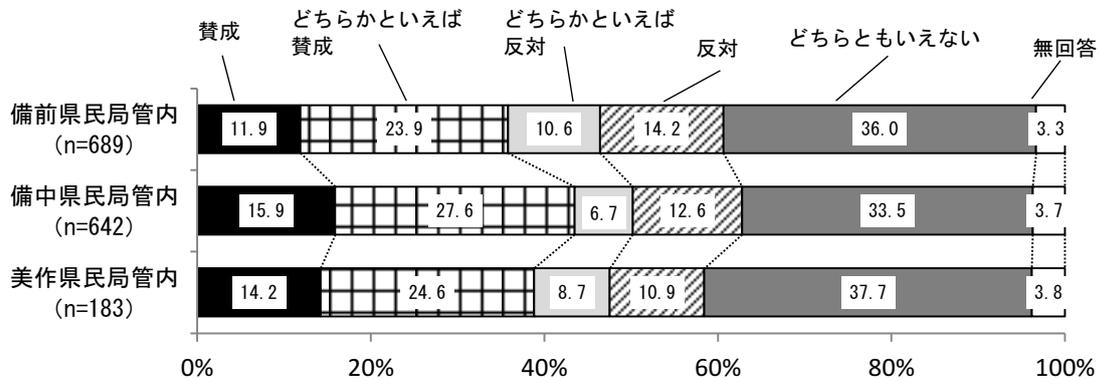
【図表 2-4-1 男性は、家庭をもって一人前だと言える（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で、『反対』は2割前後となっている。備中県民局管内は『賛成』(43.5%)が他の地域と比べ、高くなっている。

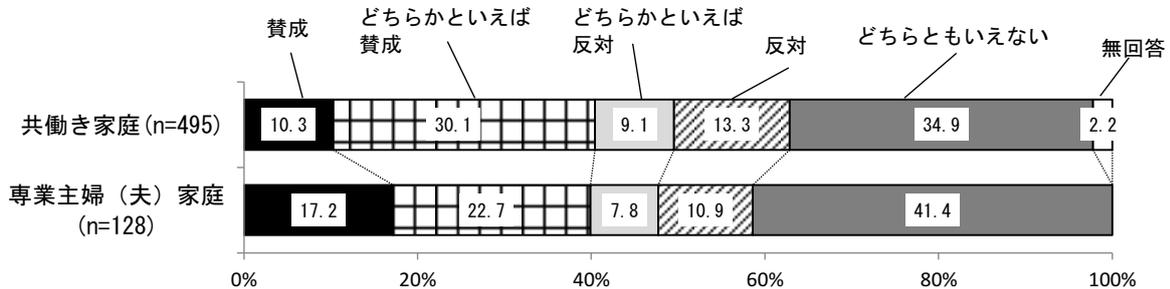
【図表 2-4-2 男性は、家庭をもって一人前だと言える(地域別)】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭・専業主婦(夫)家庭ともに『賛成』はおよそ4割と大きな差はみられないが、『反対』は共働き家庭は専業主婦(夫)家庭と比べて3.7ポイント高くなっている。

【図表 2-4-3 男性は、家庭をもって一人前だと言える(就労状況別)】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、今回調査では『賛成』の割合が低下し、『反対』の割合が上昇している。

【図表 2-4-4 男性は、家庭をもって一人前だと言える(過去の調査との比較)】

(単位: %)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H21	24.2	24.1	31.0	6.8	12.8	48.3	19.6
H26	24.0	32.5	27.1	6.7	8.8	56.5	15.5
R1	13.8	25.6	35.2	8.6	13.1	39.4	21.7

※図表 2-4-4 は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

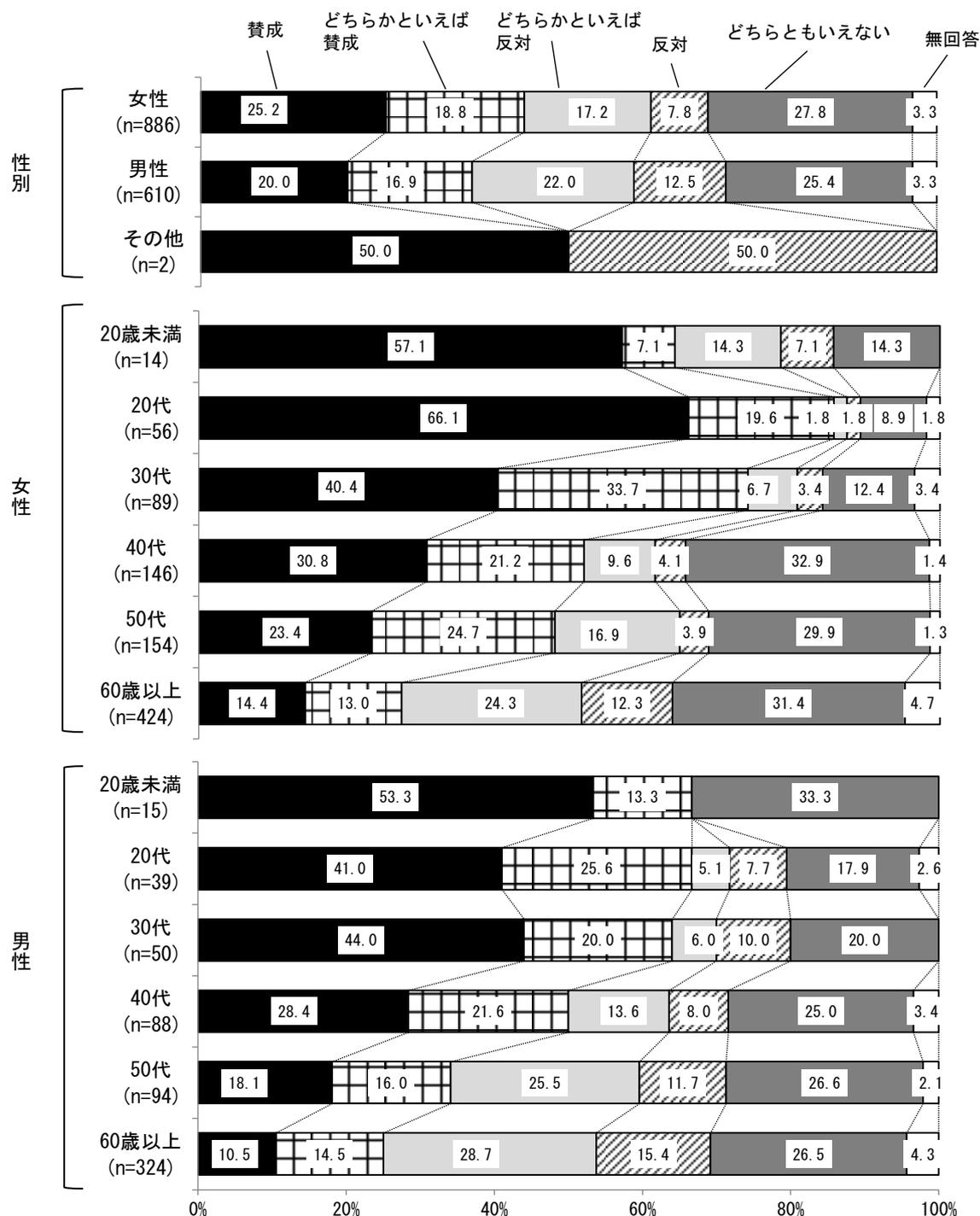
オ「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『賛成』は女性（44.0%）が男性（36.9%）を7.1ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、女性は20歳未満を除き、年齢が上がるにつれて『賛成』の割合が低くなっている。男性も年齢が上がるにつれて概ね『賛成』の割合が低くなっている。

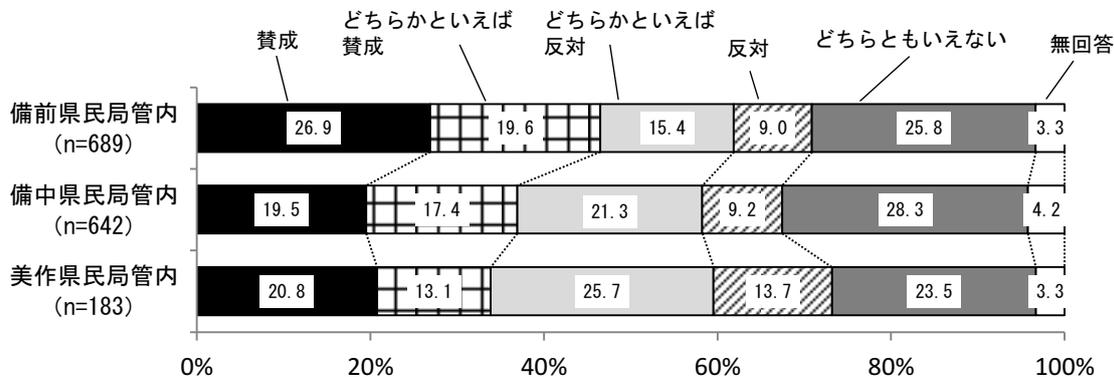
【図表 2-5-1 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない（性別、性・年齢別）】



<地域別>

美作県民局管内は他の地域と比べ、『賛成』(33.9%)が低く、『反対』(39.4%)が高くなっている。

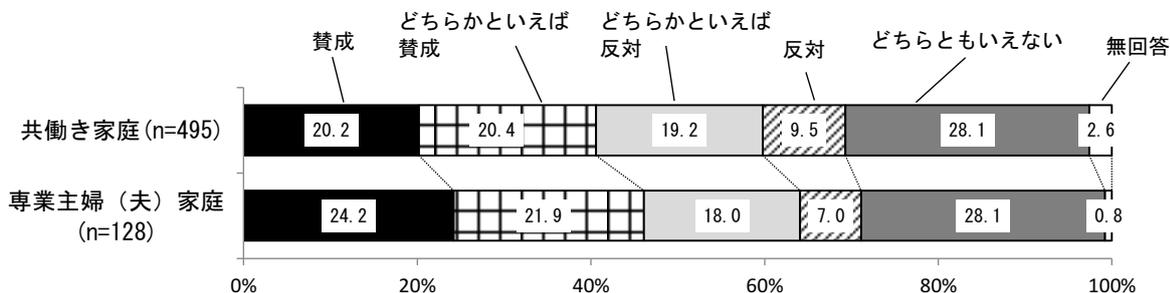
【図表 2-5-2 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(地域別)】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭は専業主婦(夫)家庭と比べて『賛成』5.5ポイント低くなっている。

【図表 2-5-3 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(就労状況)】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『賛成』の割合は今回調査では最も高くなっており、約4割となっている。

【図表 2-5-4 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(過去の調査との比較)】

(単位: %)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	16.4	10.6	20.0	27.5	23.1	27.0	50.6
H16	14.9	10.5	23.1	25.2	23.9	25.4	49.1
H21	16.0	12.6	21.1	26.4	22.4	28.5	48.9
H26	18.3	16.7	23.7	23.7	16.4	35.1	40.1
R1	22.9	18.0	26.6	19.1	9.7	40.9	28.8

※図表 2-5-4 は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

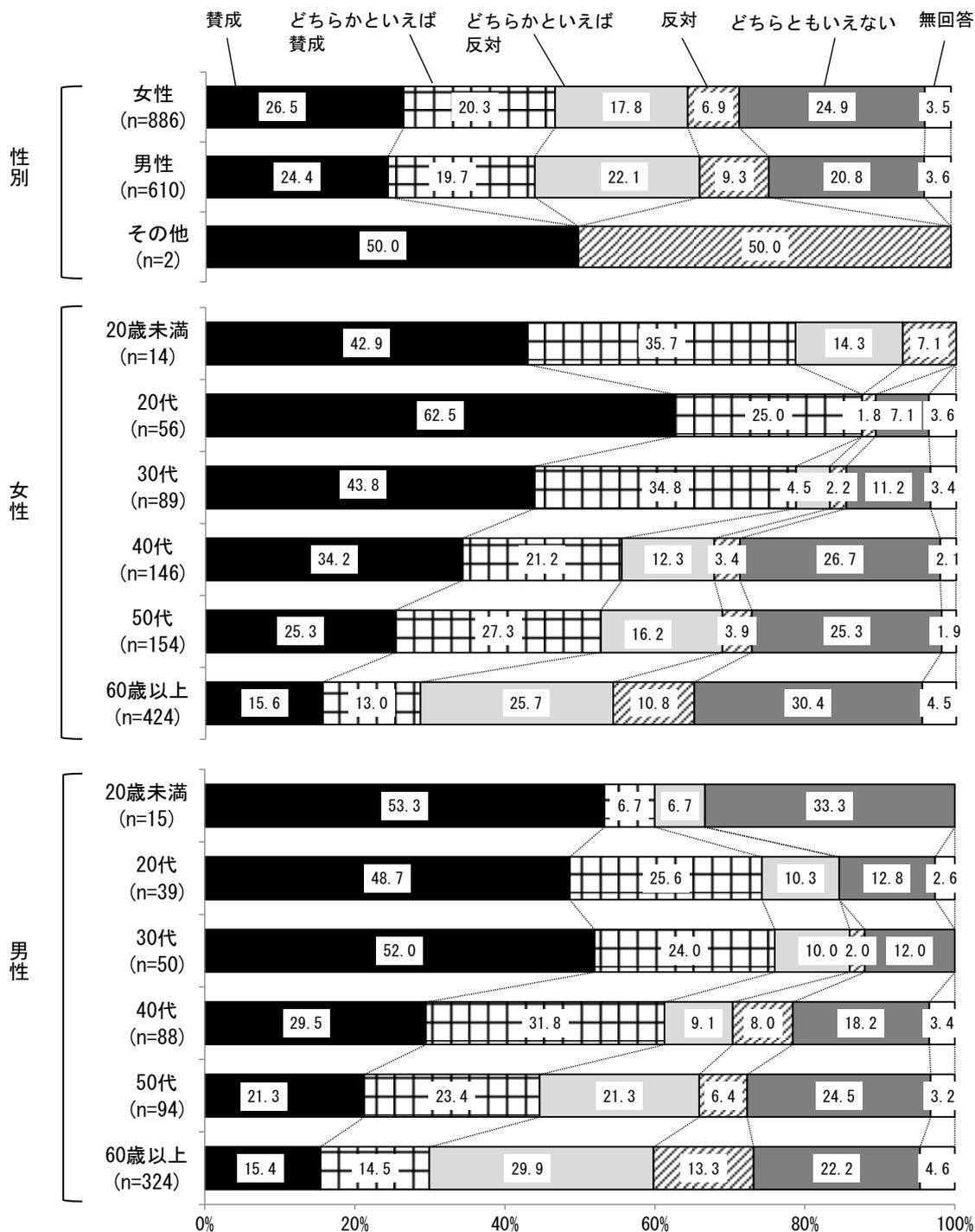
カ「結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『賛成』は女性（46.8%）が男性（44.1%）を2.7ポイント上回っている。一方、『反対』は男性（31.4%）が女性（24.7%）を6.7ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、女性は20歳未満を除き、年齢が上がるにつれて『反対』の割合が高くなっていく。男性も年齢が上がるにつれて『反対』の割合が高くなっていく。

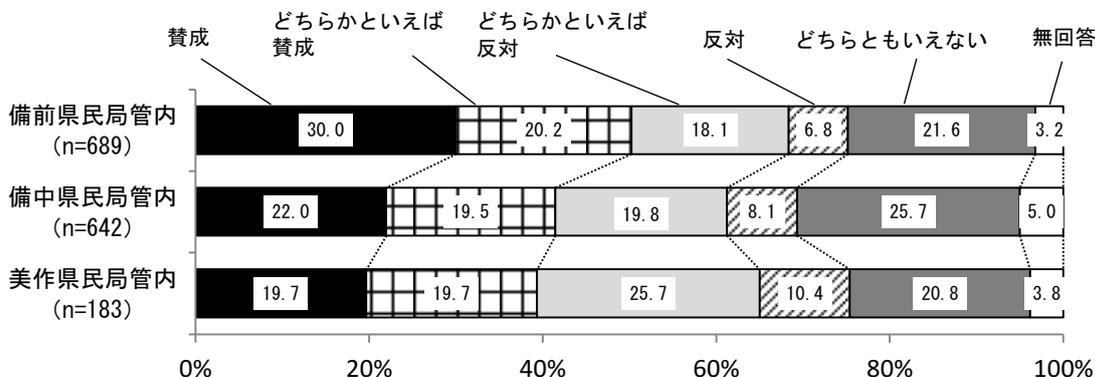
【図表 2-6-1 結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい（性別、性・年齢別）】



<地域別>

備前県民局管内と美作県民局管内で、『賛成』が4割前後となっており、備前県民局管内では『賛成』が50.2%と他の地域と比べ、高くなっている。

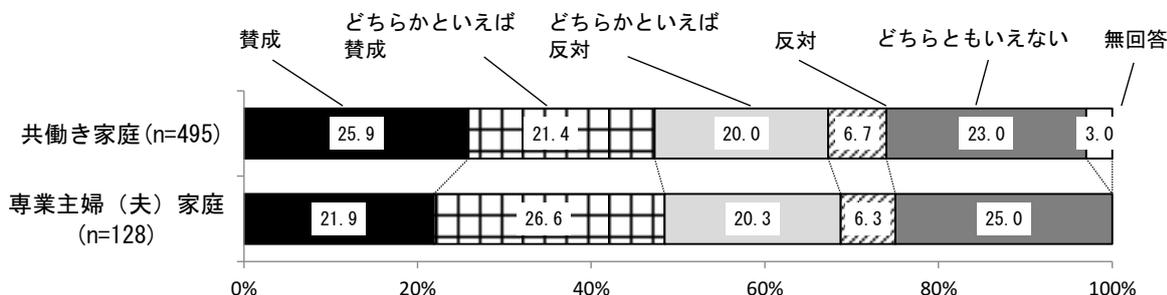
【図表 2-6-2 結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい（地域別）】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭・専業主婦（夫）家庭ともに、『賛成』はおよそ5割、『反対』は2割半ばとなっており、大きな差はみられない。

【図表 2-6-3 結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい（就労状況別）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『賛成』の割合は今回調査では最も高くなっており、H26年調査と比較すると5.8ポイント上昇している。

【図表 2-6-4 結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい（過去の調査との比較）】

(単位: %)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	23.2	16.4	20.8	24.3	12.6	39.6	36.9
H16	20.8	15.2	26.6	22.5	12.5	36.0	35.0
H21	18.8	16.4	24.0	24.3	15.1	35.2	39.4
H26	21.5	17.8	24.0	22.7	12.8	39.3	35.5
R1	25.3	19.8	23.3	19.6	7.8	45.1	27.4

※図表 2-6-4 は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

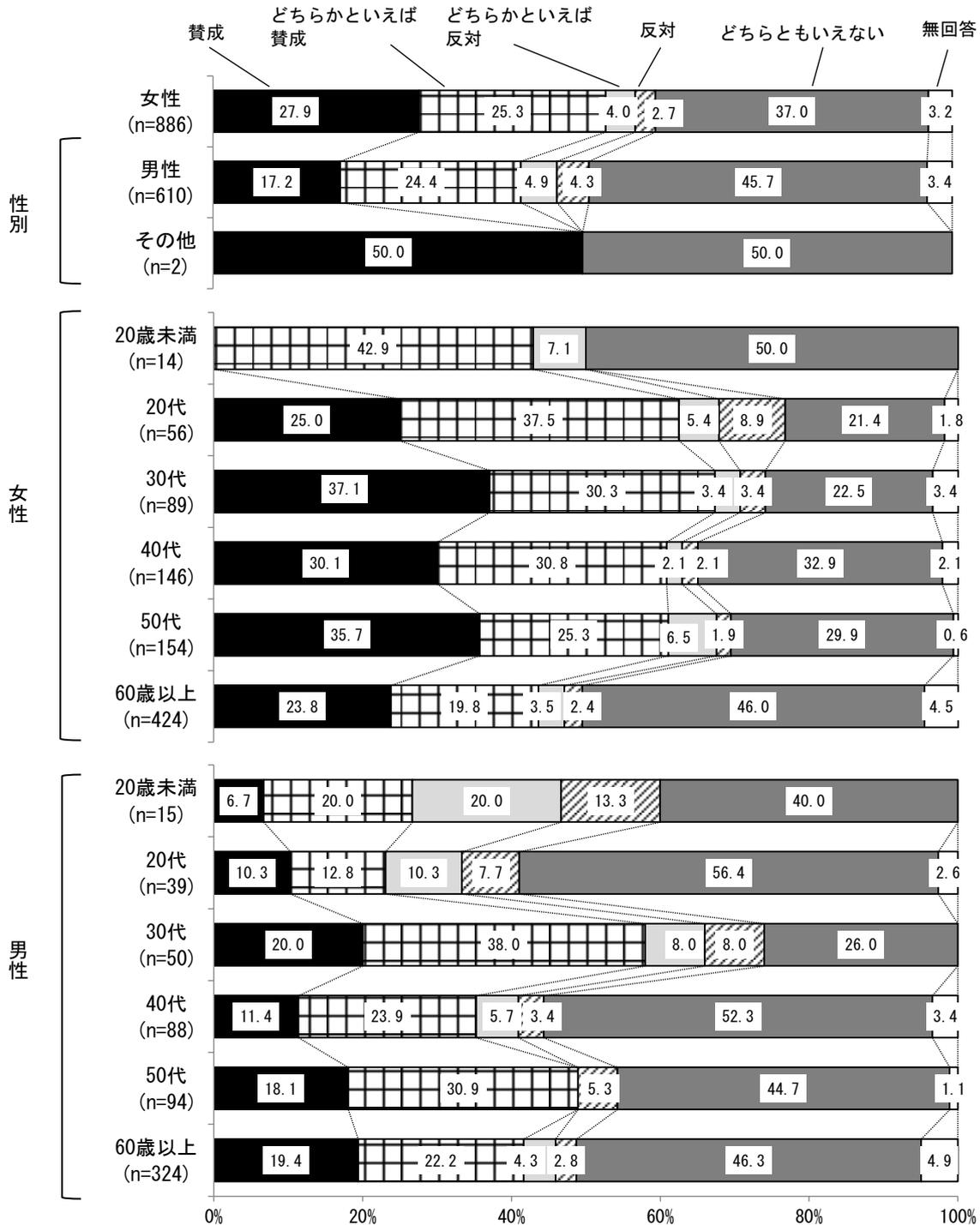
キ「一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『賛成』は女性（53.2%）が男性（41.6%）を11.6ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『賛成』は女性20歳未満、60歳以上を除き6割を超えている。また、男性は30代で『賛成』がおよそ6割前後と他の年代に比べ高くなっている。

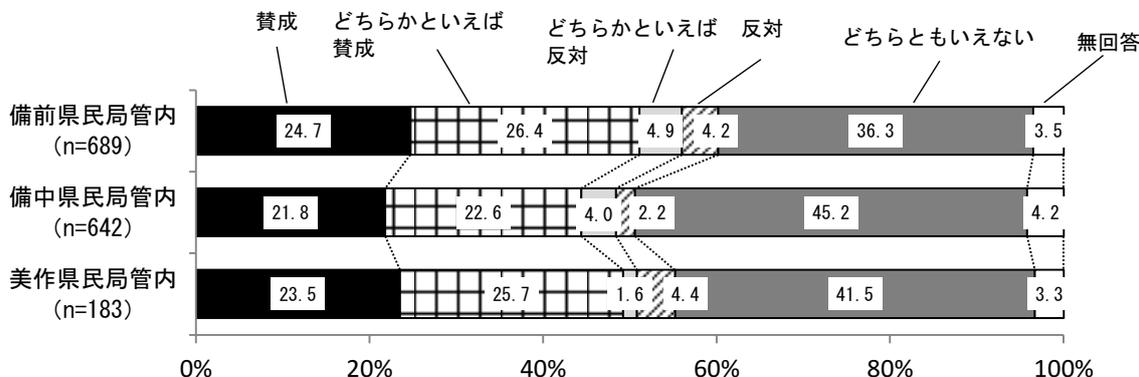
【図表 2-7-1 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で、『賛成』は5割前後となっている。備中県民局管内では「賛成」(44.4%)が他の地域と比べ、低くなっている。

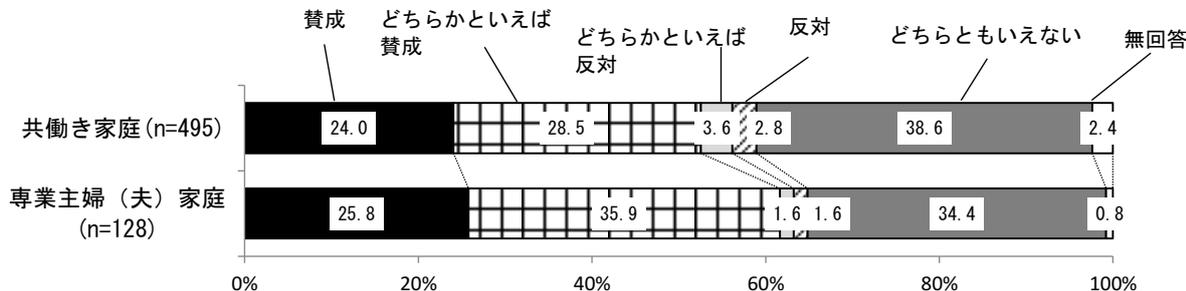
【図表 2-7-2 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(地域別)】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭は専業主婦(夫)家庭と比べて『賛成』が9.2ポイント低くなっている。

【図表 2-7-3 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(就労状況別)】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『賛成』と『反対』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 2-7-4 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である(過去の調査との比較)】

(単位: %)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	27.6	17.1	44.5	3.8	4.9	44.7	8.7
H16	27.8	20.0	42.9	4.0	2.8	47.8	6.8
H21	25.4	21.3	43.4	4.2	4.0	46.8	8.1
H26	23.6	22.4	43.9	4.9	4.2	46.0	9.1
R1	23.2	24.6	40.6	4.3	3.3	47.8	7.6

※図表 2-7-4 は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

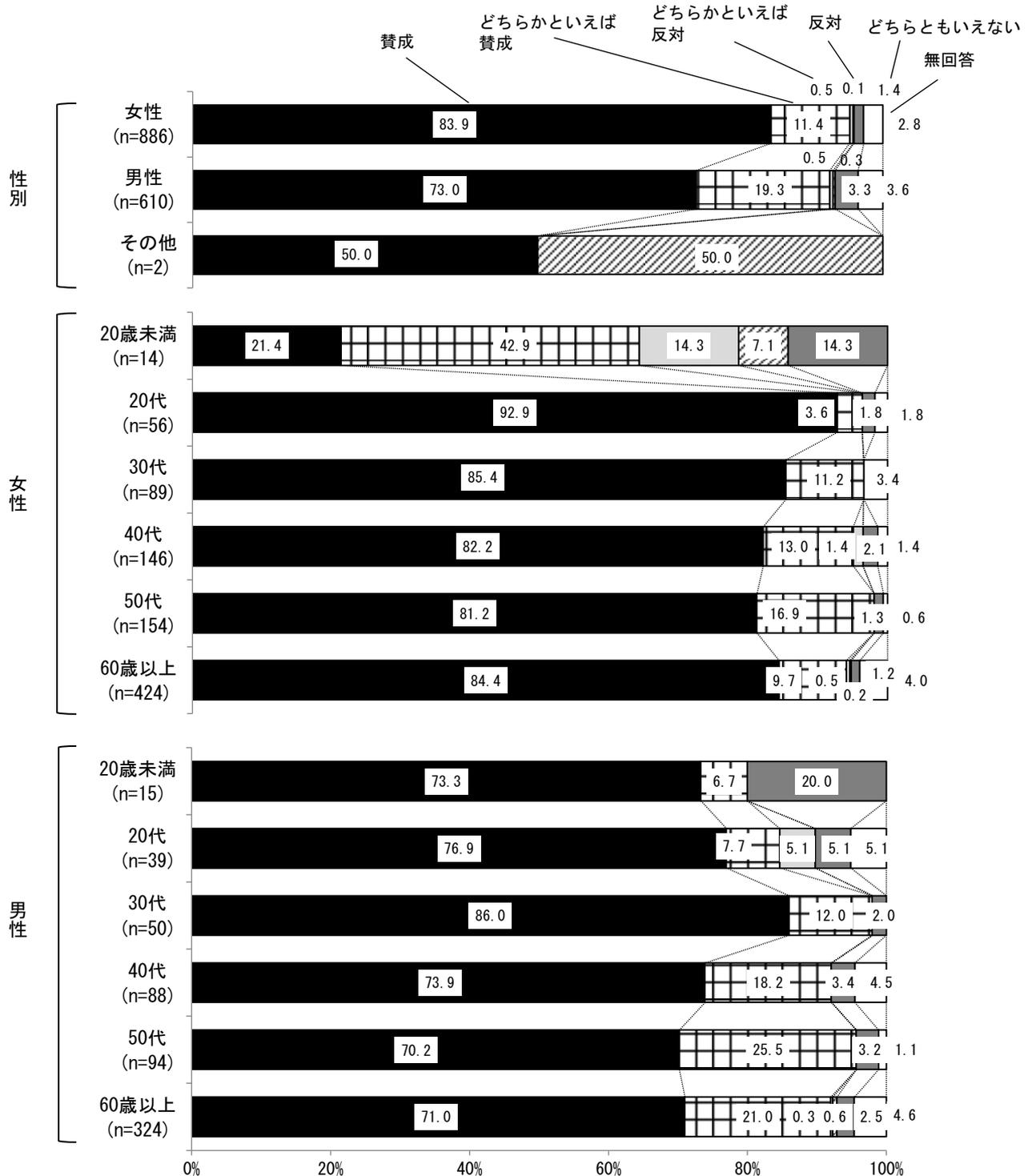
ク「夫も妻も家庭責任はともにもつべきである」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに『賛成』は9割を超え高くなっている。

性・年齢別にみると、男女ともに20歳未満と男性20代を除き、『賛成』が9割を超え高くなっている。

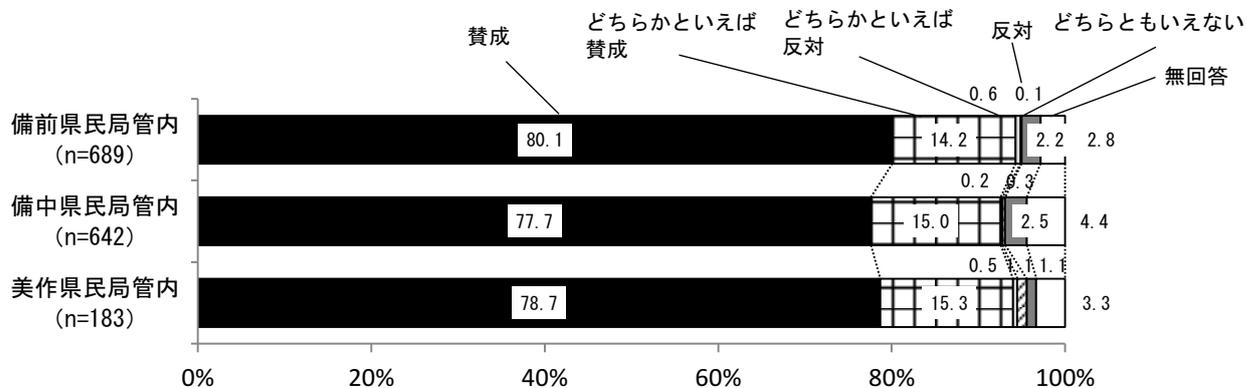
【図表 2-8-1 夫も妻も家庭責任はともにもつべきである（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で、『賛成』は9割を超えている。

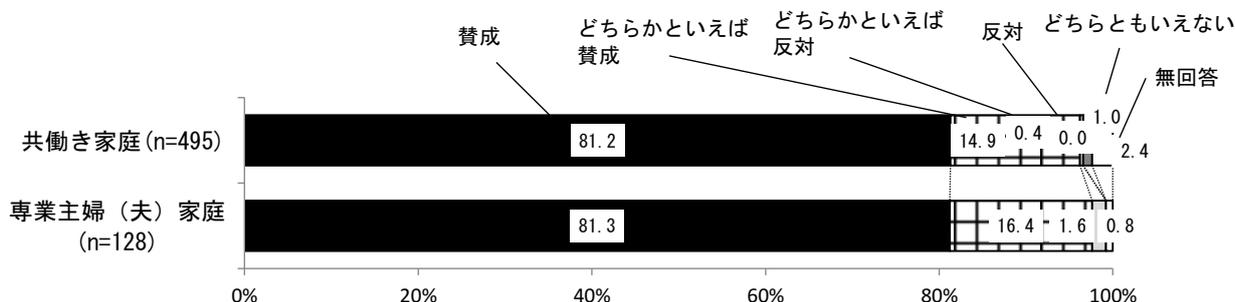
【図表 2-8-2 夫も妻も家庭責任はともにもつべきである（地域別）】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭・専業主婦（夫）家庭ともに、『賛成』は8割を超えており、大きな差はみられない。

【図表 2-8-3 夫も妻も家庭責任はともにもつべきである（就労状況別）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『賛成』と『反対』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 2-8-4 夫も妻も家庭責任はともにもつべきである（過去の調査との比較）】

(単位: %)

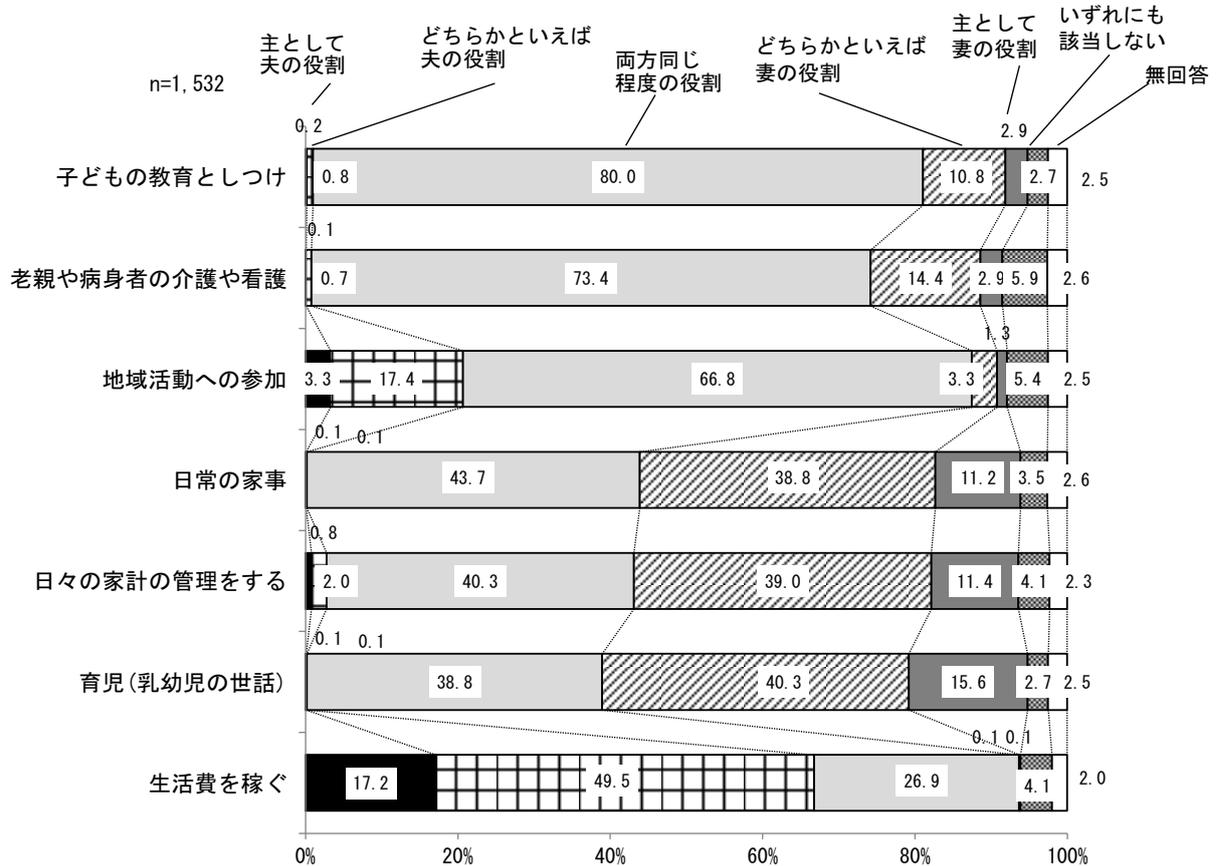
	賛成	どちらかとい えば 賛成	どちらともい えない	どちらかとい えば 反対	反対	賛成計	反対計
H12	82.4	11.3	2.6	0.6	0.3	93.7	0.9
H16	84.1	11.1	1.9	0.5	0.6	95.2	1.1
H21	84.4	12.3	1.3	0.3	0.5	96.7	0.7
H26	84.1	13.0	1.2	0.6	0.3	97.1	0.9
R1	78.7	14.6	2.2	0.5	0.3	93.3	0.8

※図表 2-8-4 は過去の調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(3) 家庭での役割についての考え方

問3 家庭での役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者のいない方についても、次のような日常的なことが、どなたの役割だとお考えになるかそれぞれについてお答えください。【○印はそれぞれ1つ】

【図表 3-1 家庭での役割についての考え方】



◆「日常の家事」、「日々の家計の管理」及び「育児」は妻の役割、「生活費を稼ぐ」は夫の役割との認識が強い

家庭での仕事の役割について、「生活費を稼ぐ」は、『夫の役割』（「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合わせた割合）が7割程度となっている。一方、「日常の家事」、「育児（乳幼児の世話）」、「日々の家計の管理をする」は、『妻の役割』（「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合わせた割合）が5割を超えている。

「子どもの教育としつけ」、「老親や病身者の介護や看護」、「地域活動への参加」は、「両方同じ程度の役割」が7割程度となっている。

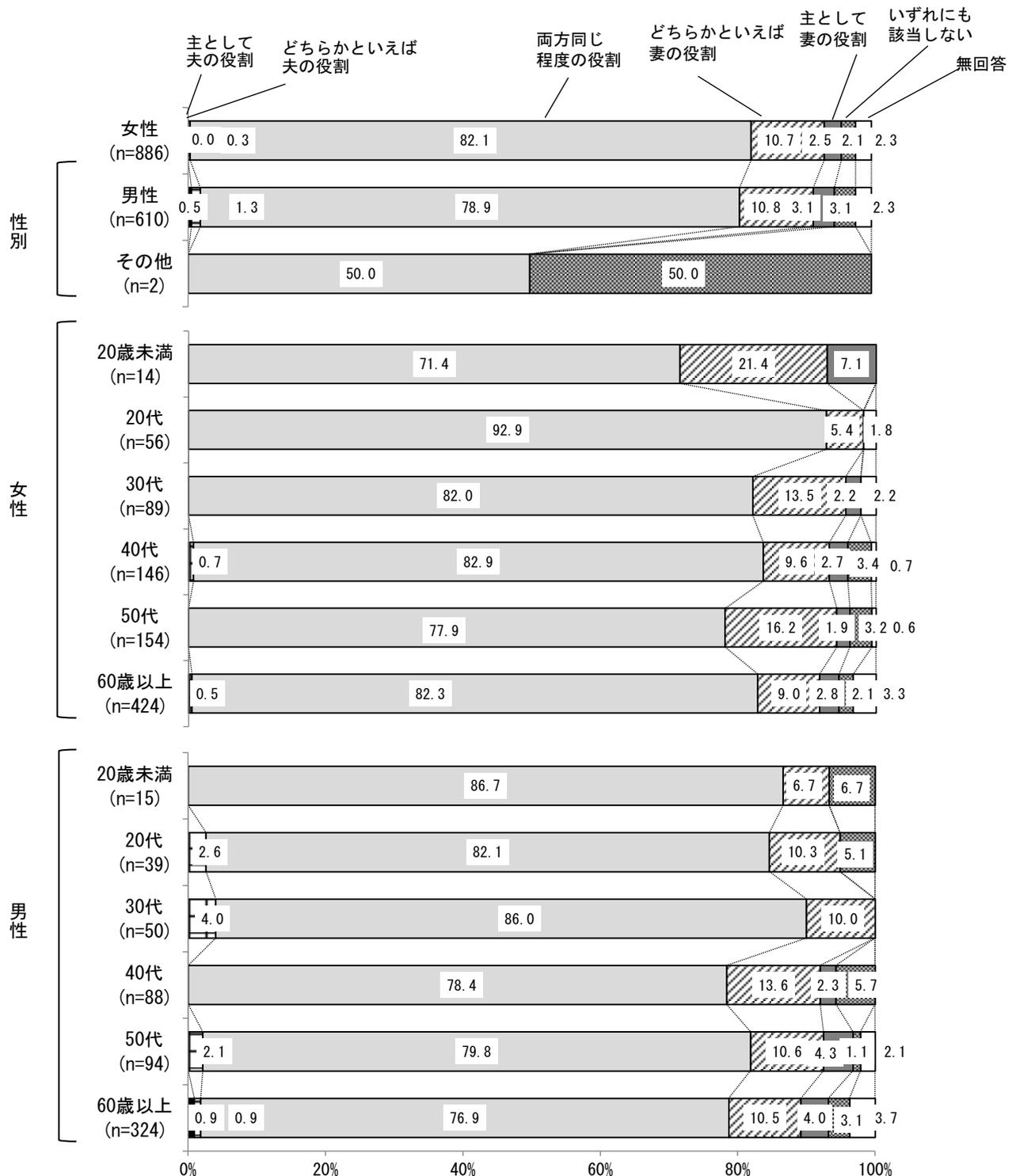
ア「子どもの教育としつけ」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」は8割前後となっている。

性・年齢別にみると、女性は20歳未満及び50代を除き、すべての年代で「両方同じ程度の役割」は8割を超えている。男性は20歳未満、20代、30代で8割を超えている。特に女性20代は9割を超え最も高くなっている。

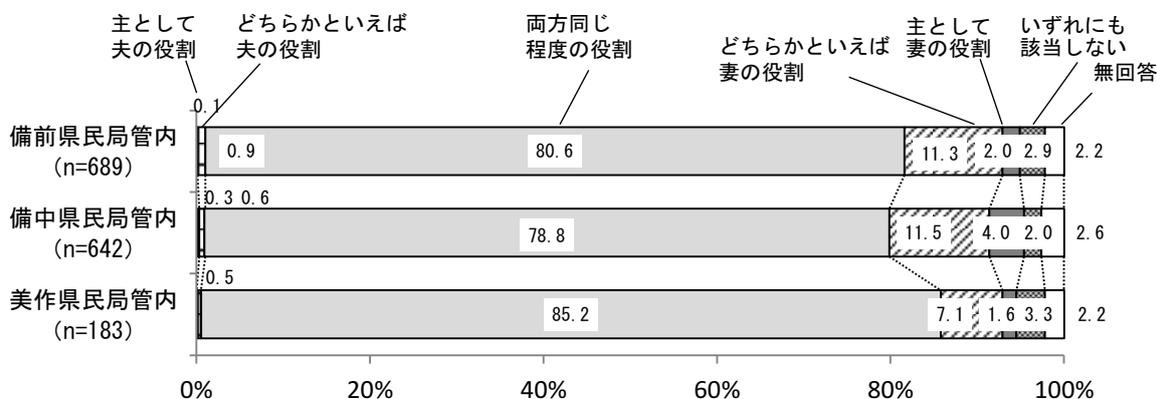
【図表 3-1-1 子どもの教育としつけ（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で、「両方同じ程度の役割」は8割前後となっており、大きな差はみられない。

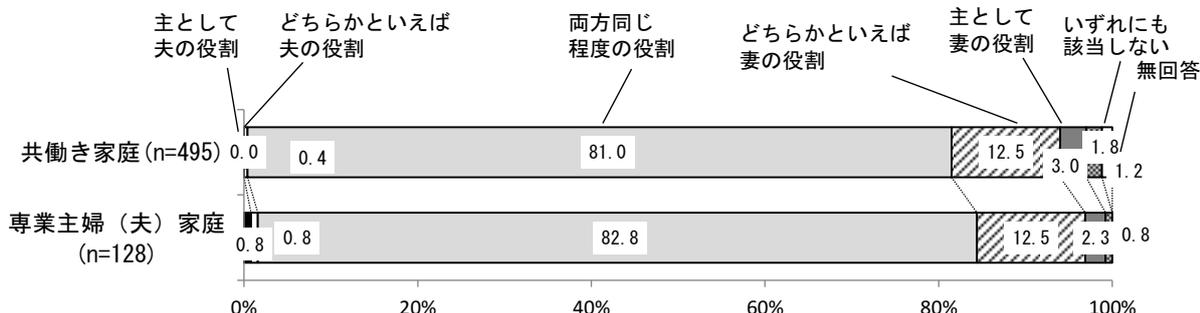
【図表 3-1-2 子どもの教育としつけ（地域別）】



<就労状況別>

就労状況別にみると、専業主婦（夫）家庭・共働き家庭ともに「両方同じ程度の役割」は8割を超えており、大きな差はみられない。

【図表 3-1-3 子どもの教育としつけ（就労状況別）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『妻の役割』の割合はH12年調査より8.7ポイント低下しているが、H16年調査以降は大きな変化は見られない。『夫の役割』割合はほぼ横ばいで、大きな変化は見られない。

【図表 3-1-4 子どもの教育としつけ（過去の調査との比較）】

(単位: %)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.5	1.2	72.0	16.1	6.3	1.7	22.4
H16	0.7	0.6	80.0	11.7	4.4	1.3	16.1
H21	0.7	1.1	77.4	10.3	2.9	1.8	13.2
H26	0.4	0.6	83.3	10.0	2.7	1.0	12.7
R1	0.2	0.8	80.0	10.8	2.9	1.0	13.7

※図表 3-1-4 は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

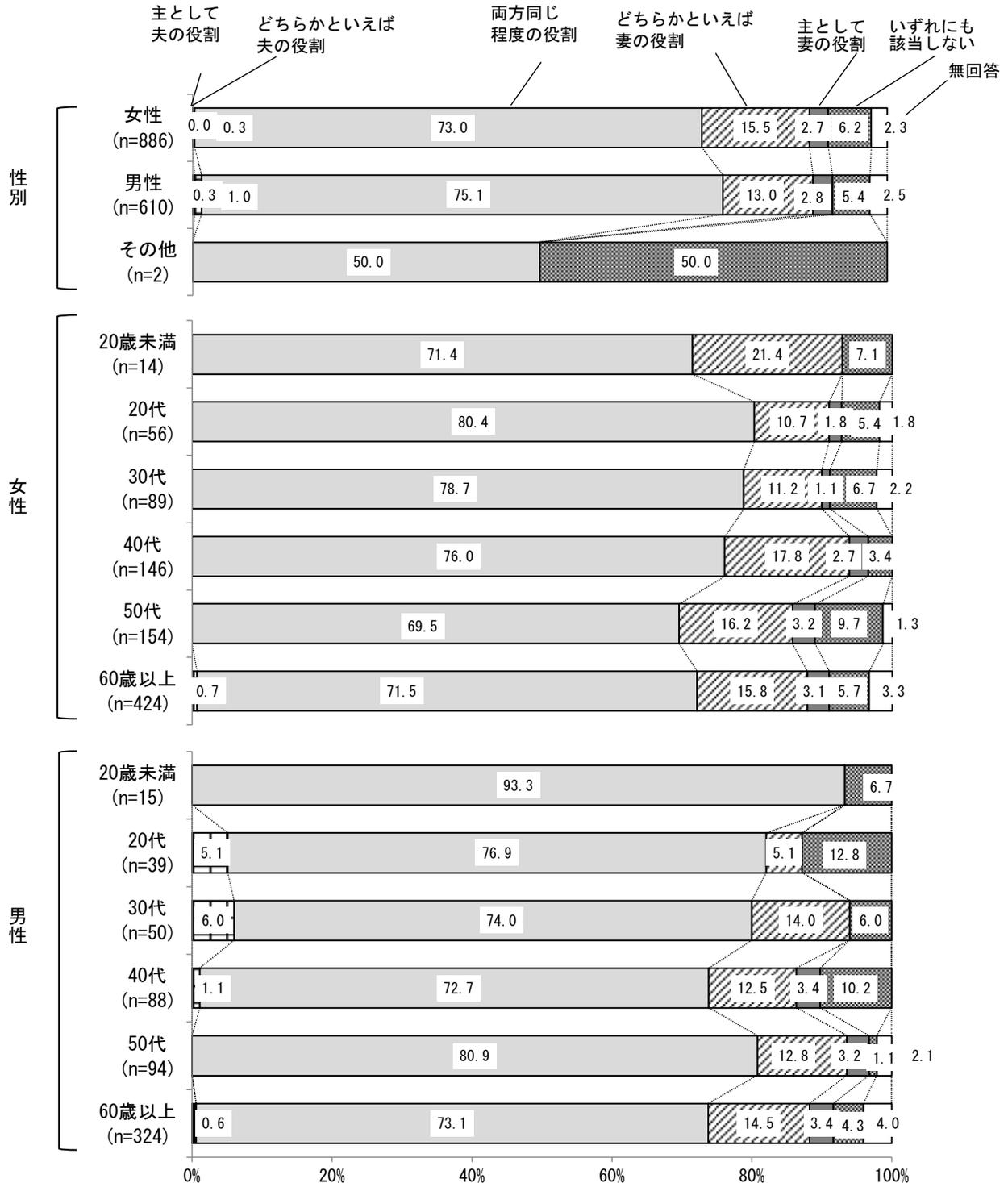
イ「老親や病身者の介護や看護」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」が7割を超えている。

性・年齢別にみると、「両方同じ程度の役割」は女性20代、男性20歳未満及び50代で8割を超え高くなっている。

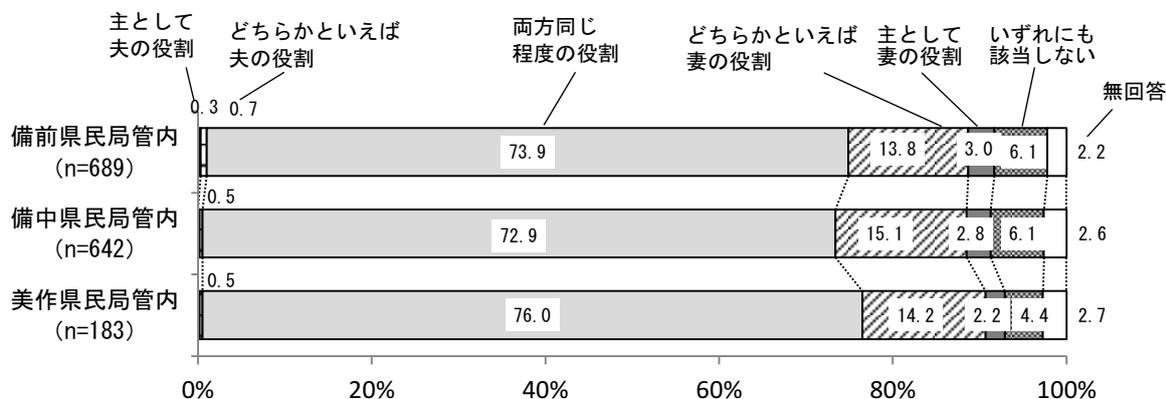
【図表 3-2-1 老親や病身者の介護や看護（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で、「両方同じ程度の役割」は7割を超えており、大きな差はみられない。

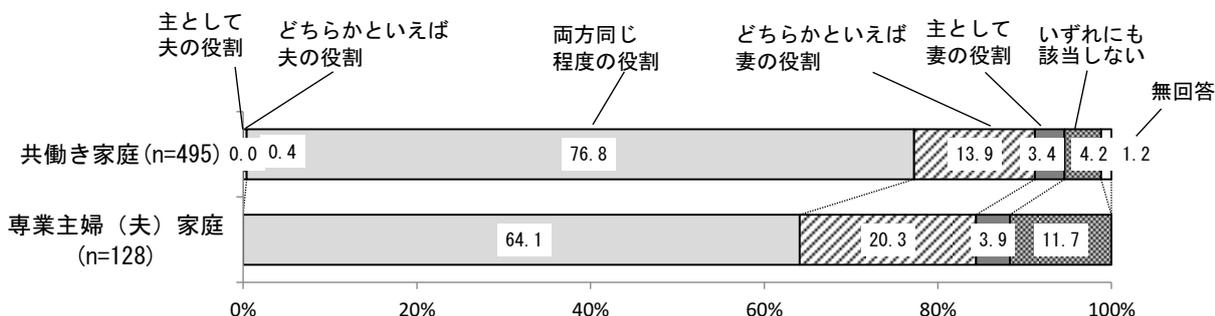
【図表 3-2-2 老親や病身者の介護や看護（地域別）】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭は専業主婦（夫）家庭と比べ、「両方同じ程度の役割」が12.7ポイント高くなっており、『妻の役割』が6.9ポイント低くなっている。

【図表 3-2-3 老親や病身者の介護や看護（就労状況別）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『夫の役割』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。「両方同じ程度の役割」の割合は年々上昇しており、『妻の役割』の割合は年々低下している。

【図表 3-2-4 老親や病身者の介護や看護（過去の調査との比較）】

(単位: %)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.2	0.2	51.1	29.2	12.1	0.4	41.3
H16	0.2	0.2	61.3	23.5	7.5	0.4	31.0
H21	0.3	0.5	66.6	17.7	4.6	0.8	22.3
H26	0.2	0.1	72.1	17.3	3.5	0.4	20.9
R1	0.1	0.7	73.4	14.4	2.9	0.8	17.3

※図表 3-2-4 は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

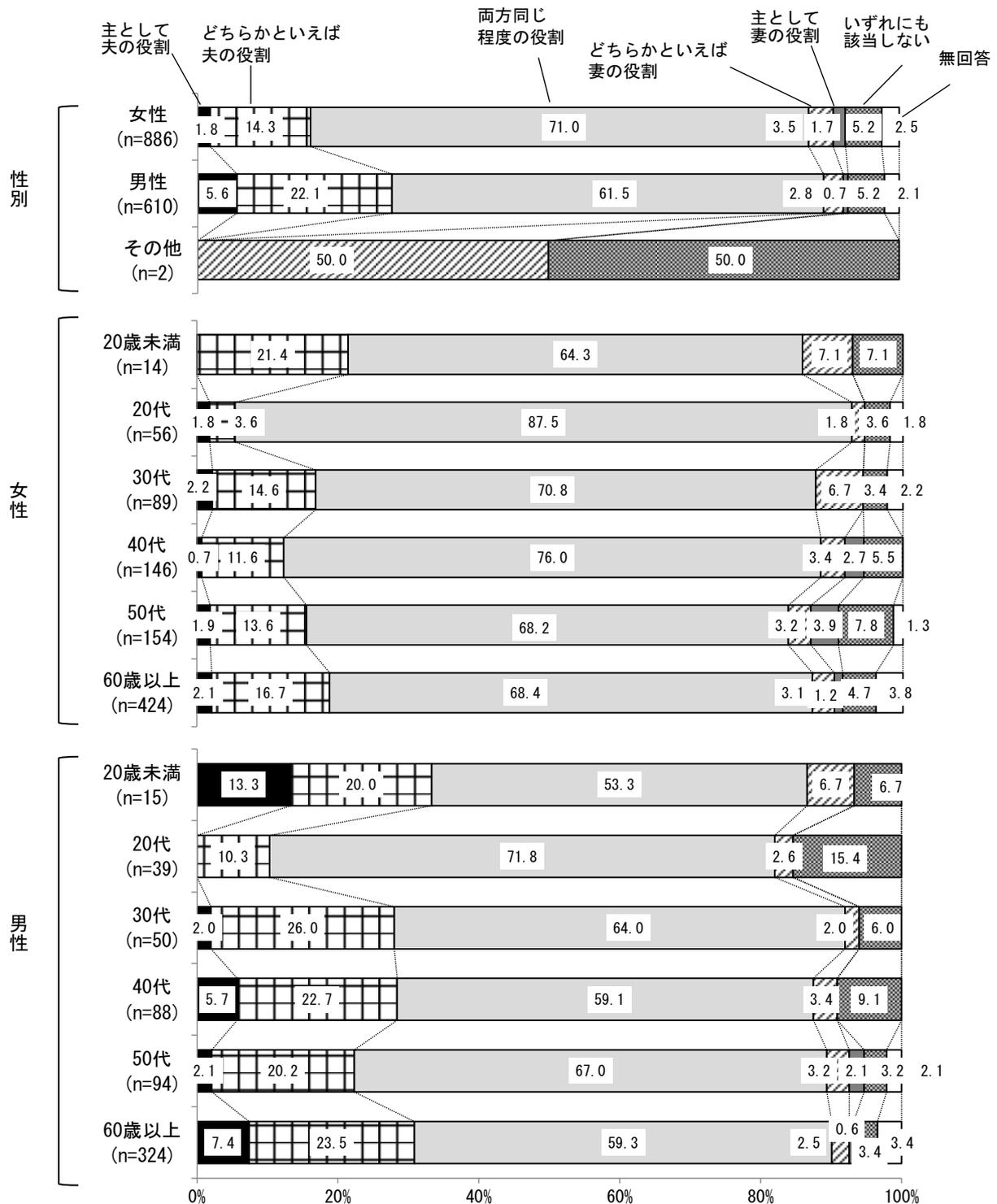
ウ「地域活動への参加」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『夫の役割』は、男性（27.7%）が女性（16.1%）を11.6ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「両方同じ程度の役割」は女性20代、30代、40代、男性20代で7割を超え高くなっている。

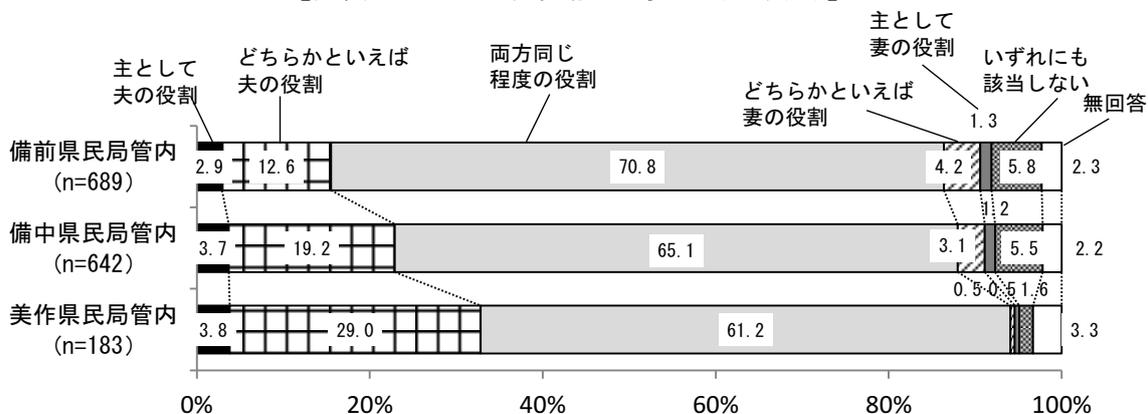
【図表 3-3-1 地域活動への参加（性別、性・年齢別）】



<地域別>

『夫の役割』は美作県民局管内（32.8%）が最も高く、備前県民局管内（15.5%）が最も低くなっており、17.3ポイントの差がある。

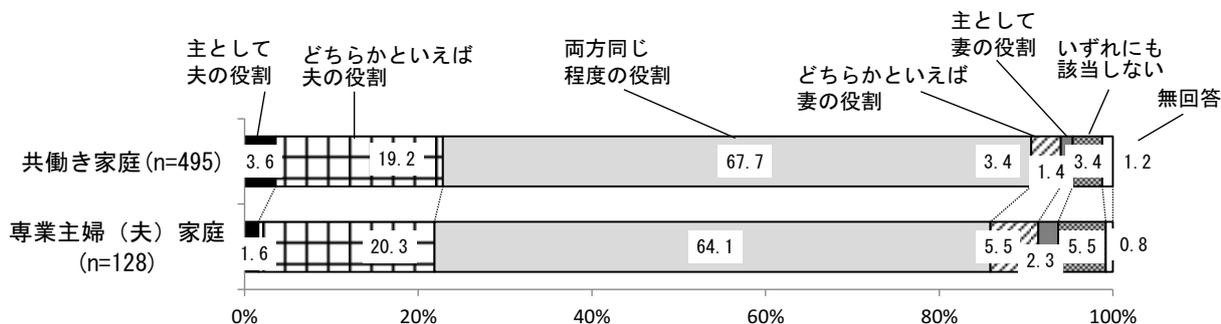
【図表 3-3-2 地域活動への参加（地域別）】



<就労状況別>

就労状況別にみると、専業主婦（夫）家庭・共働き家庭ともに「両方同じ程度の役割」は6割を超えており、大きな差はみられない。

【図表 3-3-3 地域活動への参加（就労状況別）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『夫の役割』の割合は多少の増減はあるがほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。『妻の役割』の割合は年々低下しており、H12年調査より7.8ポイント低くなっている。

【図表 3-3-4 地域活動への参加（過去の調査との比較）】

(単位: %)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	4.0	16.2	62.5	8.9	3.5	20.2	12.4
H16	4.1	12.8	68.2	7.2	2.9	16.9	10.1
H21	3.2	15.1	66.2	4.7	1.3	18.3	6.0
H26	4.5	14.6	70.9	4.5	1.0	19.1	5.5
R1	3.3	17.4	66.8	3.3	1.3	20.7	4.6

※図表 3-3-4 は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

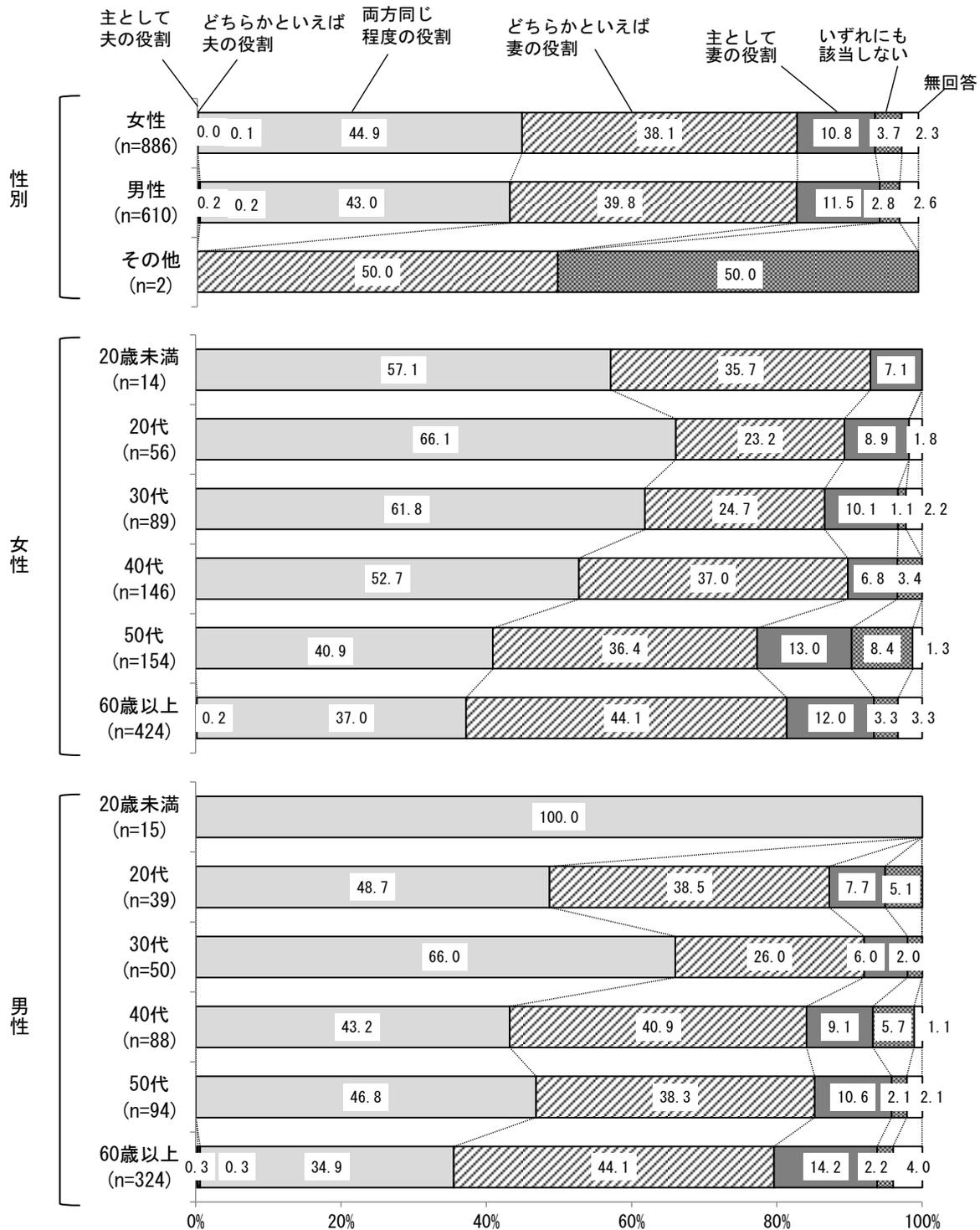
エ「日常の家事」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに『妻の役割』は5割前後となっている。

性・年齢別にみると、女性は年齢が上がるにつれて「両方同じ程度の役割」の割合が低くなっている。
男性は20歳未満、30代を除き『妻の役割』が5割前後となっている。

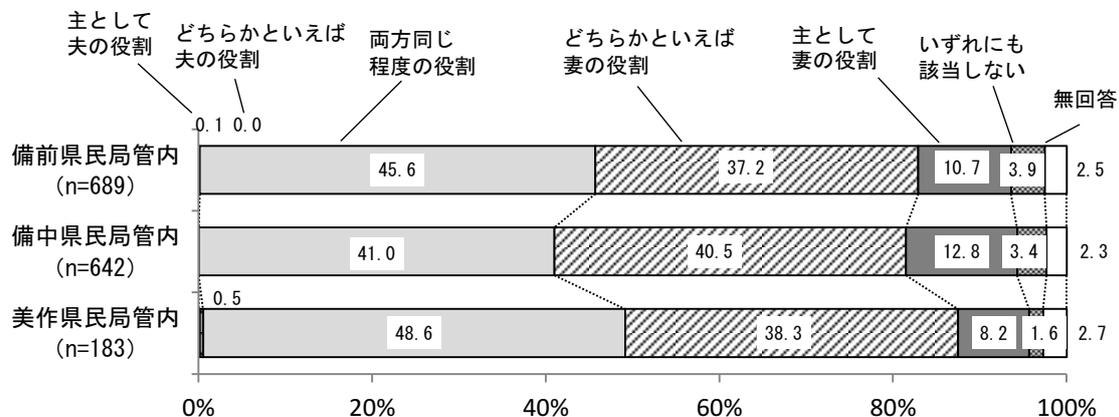
【図表 3-4-1 日常の家事（性別、性・年齢別）】



<地域別>

備前県民局管内は他の地域と比べ、『妻の役割』（53.3%）が高く、「両方同じ程度の役割」（41.0%）が低くなっている。

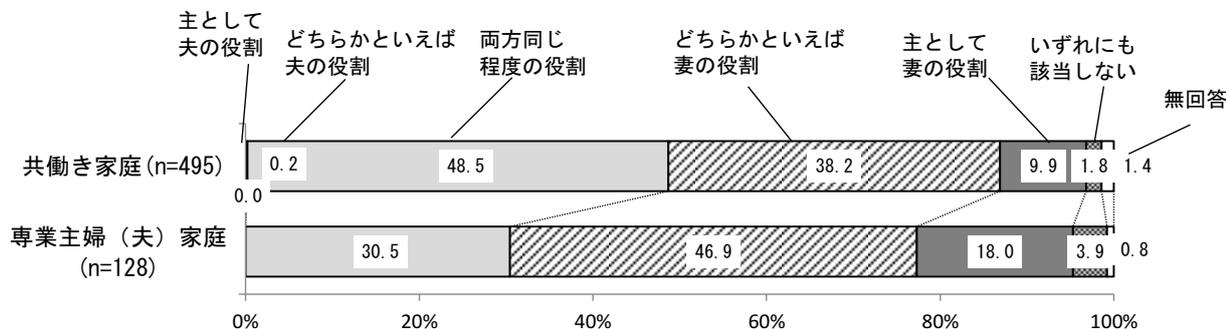
【図表 3-4-2 日常の家事（地域別）】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭は、専業主婦（夫）家庭と比べ、「両方同じ程度の役割」が18.0ポイント高くなっており、『妻の役割』（48.1%）が低くなっている。

【図表 3-4-3 日常の家事（就労状況別）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『夫の役割』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。『妻の役割』の割合は年々低下しており、H12年調査より29.2ポイント低くなっている。

【図表 3-4-4 日常の家事（過去の調査との比較）】

(単位: %)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.1	0.1	16.7	45.8	33.4	0.2	79.2
H16	0.1	0.2	22.8	45.4	26.4	0.3	71.8
H21	0.3	0.3	27.3	43.6	19.7	0.6	63.3
H26	0.2	0.1	35.7	43.5	16.9	0.4	60.4
R1	0.1	0.1	43.7	38.8	11.2	0.2	50.0

※図表 3-4-4 は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

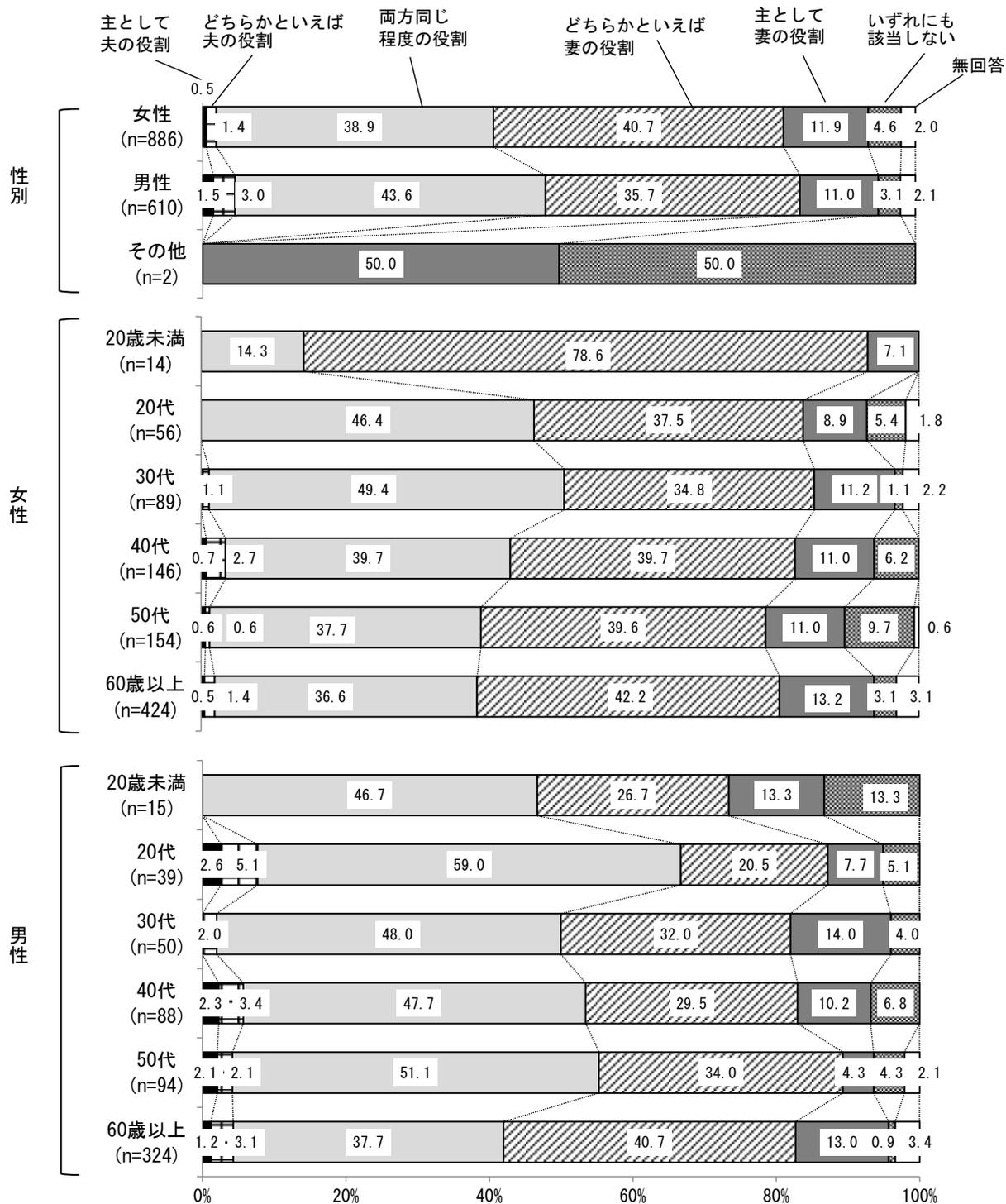
オ「日々の家計の管理をする」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『妻の役割』は男女ともに5割前後となっている。

性・年齢別にみると、女性は20代未満を除き、『妻の役割』が5割前後となっている。

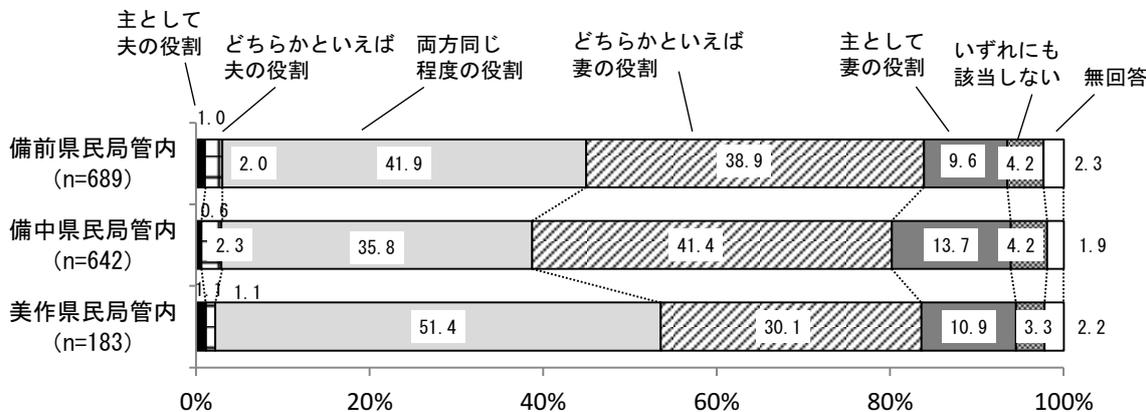
【図表 3-5-1 日々の家計の管理をする（性別、性・年齢別）】



<地域別>

美作県民局管内は他の地域と比べ、『妻の仕事』（41.0%）が低く、「両方同じ程度の役割」（51.4%）が高くなっている。

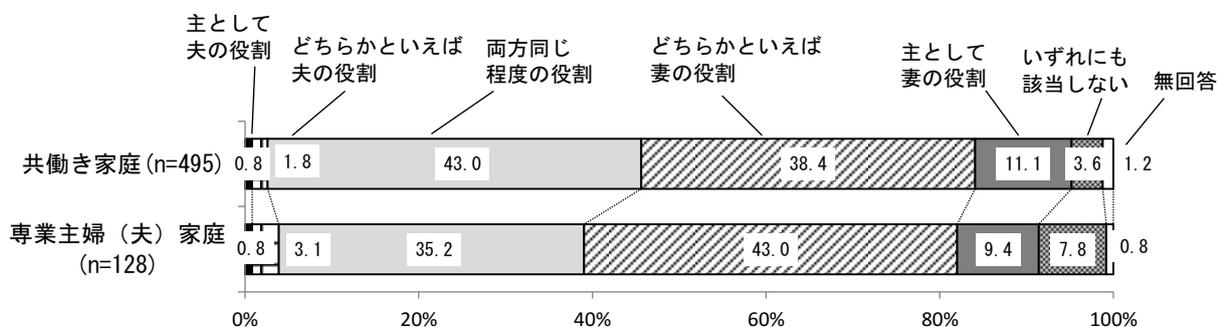
【図表 3-5-2 日々の家計の管理をする（地域別）】



<就労状況別>

就労状況別にみると、専業主婦（夫）家庭・共働き家庭ともに『妻の役割』が5割前後となっている。共働き家庭は、専業主婦（夫）家庭と比べ、「両方同じ程度の役割」が7.8ポイント高くなっている。

【図表 3-5-3 日々の家計の管理をする（就労状況別）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『夫の役割』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。『妻の役割』の割合は年々低下しており、H12年調査より25.6ポイント低くなっている。

【図表 3-5-4 日々の家計の管理をする（過去の調査との比較）】

(単位: %)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.8	0.9	18.6	47.2	28.8	1.7	76.0
H16	0.7	1.5	24.6	45.1	24.0	2.2	69.1
H21	1.0	1.3	29.9	38.1	20.8	2.3	58.9
H26	0.6	1.4	36.6	38.5	18.2	2.0	56.7
R1	0.8	2.0	40.3	39.0	11.4	2.8	50.4

※図表 3-5-4 は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

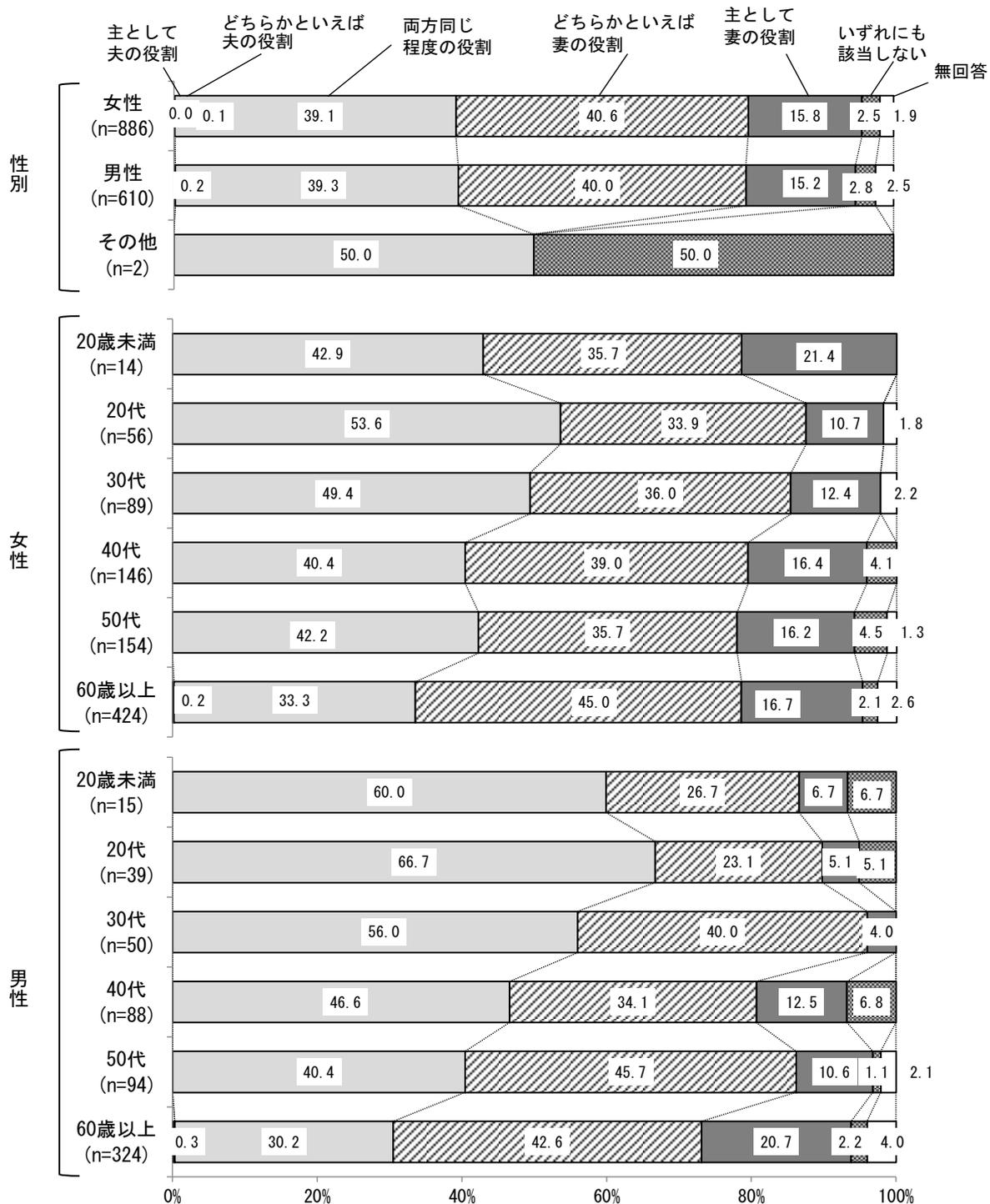
カ「育児（乳幼児の世話）」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに『妻の役割』は5割を超えている。

性・年齢別にみると、女性は20歳未満及び50代を除き、年齢が上がるにつれて『妻の役割』の割合が高くなっている。男性は20歳未満を除き、年齢が上がるにつれて『妻の役割』の割合が高くなっている。

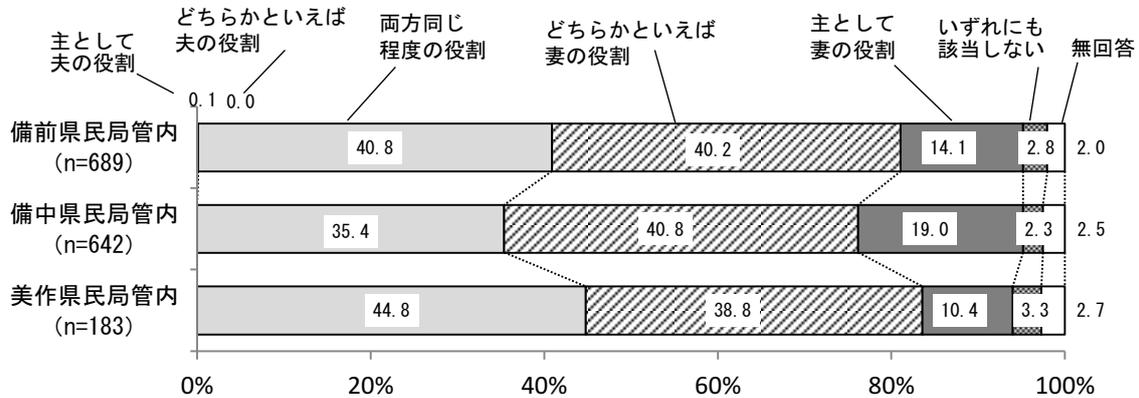
【図表 3-6-1 育児（乳幼児の世話）（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で、『妻の役割』は5割前後となっている。備中県民局管内は『妻の役割』が他の地域と比べ、高くなっている。

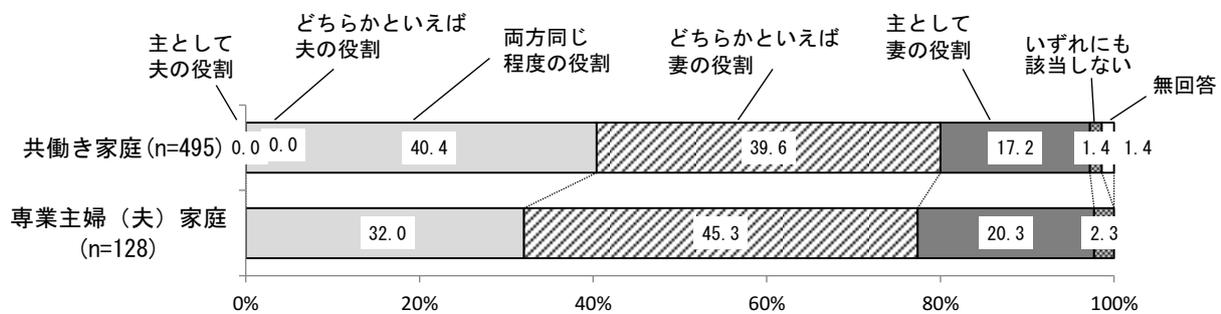
【図表 3-6-2 育児（乳幼児の世話）（地域別）】



<就労状況別>

就労状況別にみると、共働き家庭は、専業主婦（夫）家庭と比べ、「両方同じ程度の役割」が8.4ポイント高くなっており、『妻の役割』が8.8ポイント低くなっている。

【図表 3-6-3 育児（乳幼児の世話）（就労状況別）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『夫の役割』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。『妻の役割』の割合は減少傾向にあり、H12年調査より18.8ポイント低くなっている。

【図表 3-6-4 育児（乳幼児の世話）（過去の調査との比較）】

(単位: %)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.1	0.1	20.8	42.6	32.1	0.2	74.7
H16	0.0	0.2	35.4	40.0	20.9	0.2	60.9
H21	0.3	0.3	29.5	41.7	20.3	0.5	62.1
H26	0.1	0.0	33.5	44.4	18.9	0.1	63.3
R1	0.1	0.1	38.8	40.3	15.6	0.2	55.9

※図表 3-6-4 は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

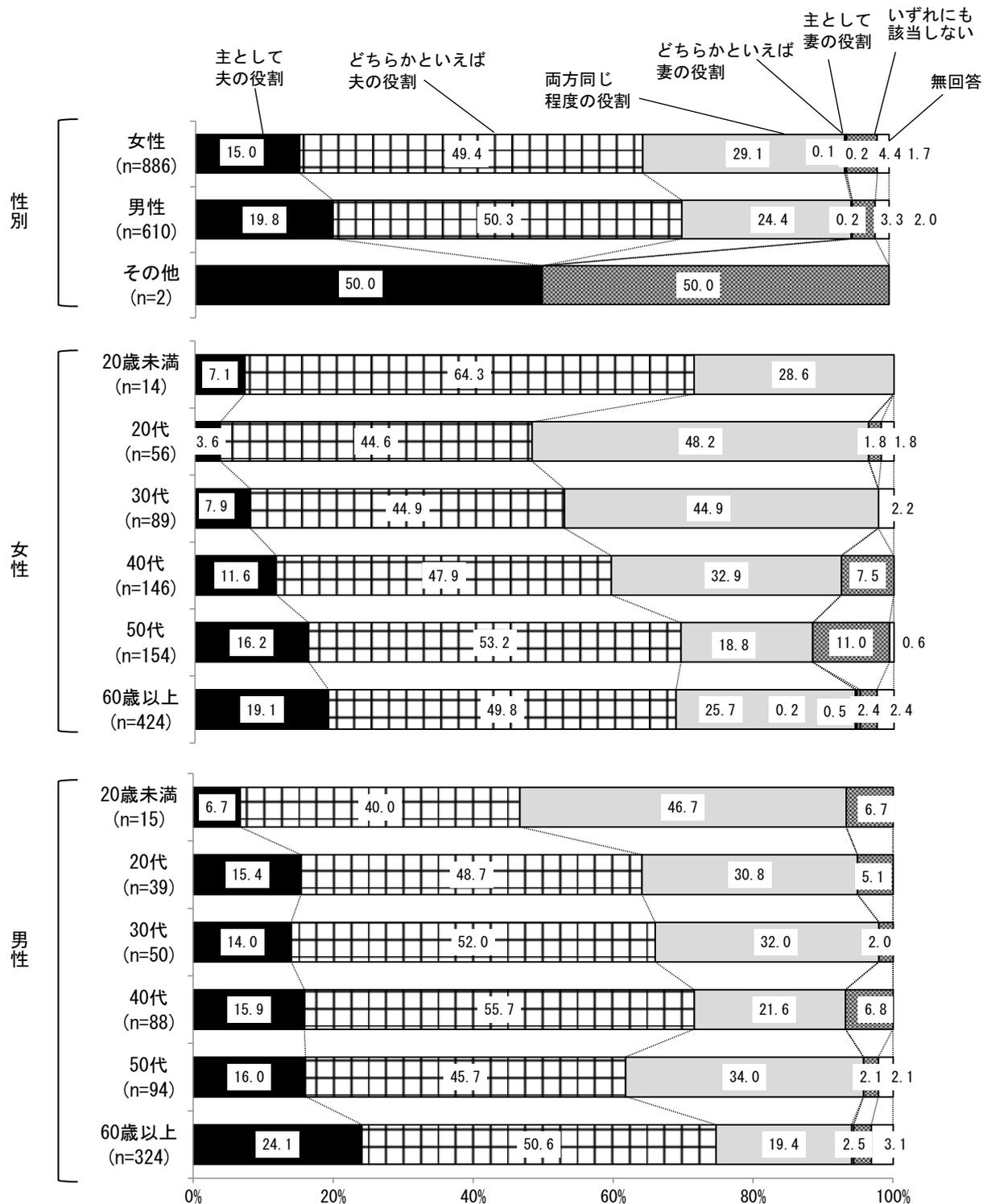
キ「生活費を稼ぐ」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『夫の役割』は男性（70.1%）が女性（64.4%）を5.7ポイント上回っている。「両方同じ程度の役割」は、女性（29.1%）が男性（24.4%）を4.7ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、女性は20代から50代、男性は20歳未満から40代にかけて年齢が上がるにつれて『夫の役割』が高くなっている。

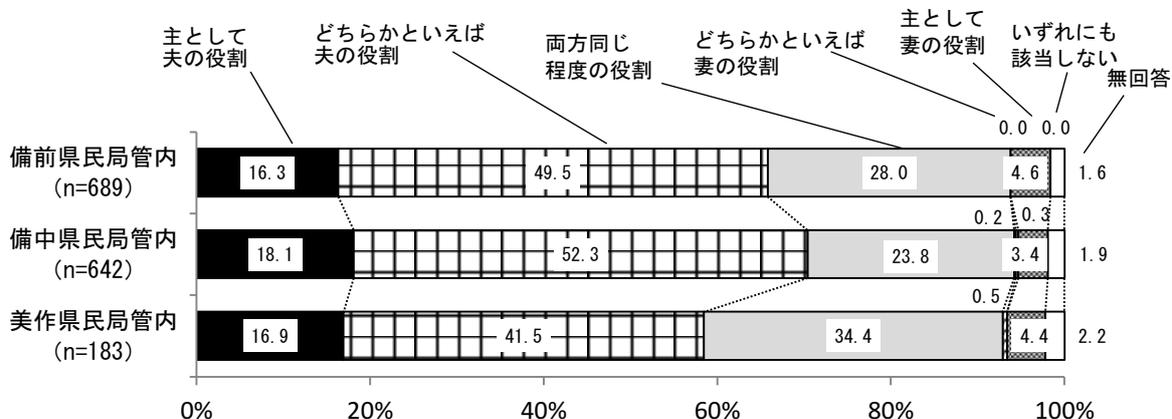
【図表 3-7-1 生活費を稼ぐ（性別、性・年齢別）】



<地域別>

すべての地域で、『夫の役割』は6割前後となっている。備前県民局管内は『夫の役割』が他の地域と比べ、高くなっている。

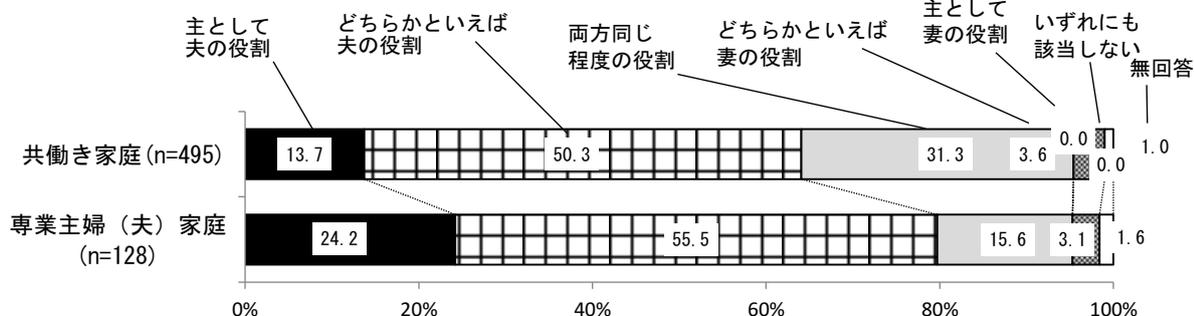
【図表 3-7-2 生活費を稼ぐ（地域別）】



<就労状況別>

就労状況別にみると、専業主婦（夫）家庭では、『夫の役割』がおよそ8割となっており、共働き夫婦より15.7ポイント高くなっている。また、共働き家庭は、専業主婦（夫）家庭と比べ、「両方同じ程度の役割」が15.7ポイント低くなっている。

【図表 3-7-3 生活費を稼ぐ（就労状況別）】



<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、『夫の役割』の割合は低下傾向にあり、H12年調査より19.1ポイント低くなっている。

【図表 3-7-4 生活費を稼ぐ（過去の調査との比較）】

(単位: %)

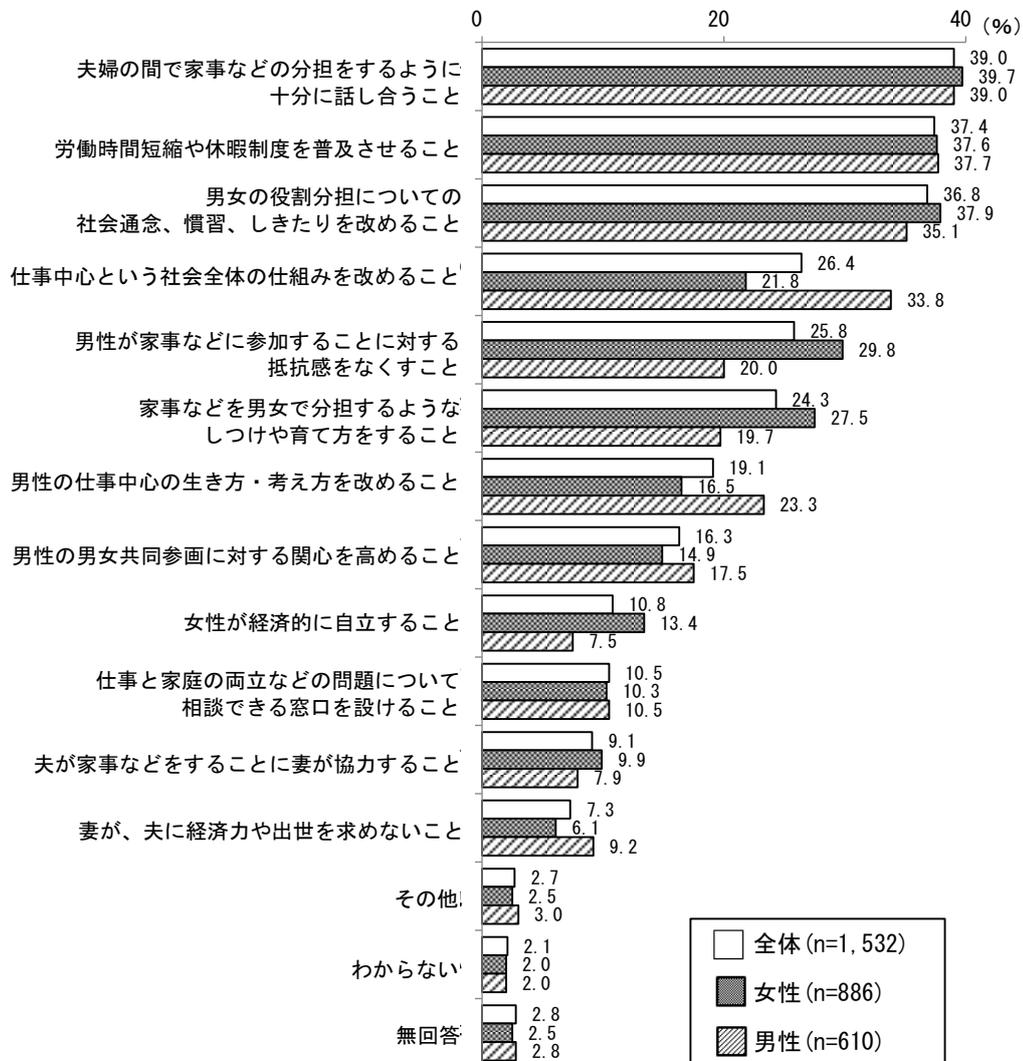
	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	41.7	44.1	10.9	0.2	0.1	85.8	0.3
H16	31.6	49.1	14.4	1.4	0.1	80.7	1.5
H21	29.6	44.5	17.0	0.1	0.0	74.1	0.1
H26	23.3	51.1	21.1	0.1	0.0	74.4	0.1
R1	17.2	49.5	26.9	0.1	0.1	66.7	0.2

※図表 3-7-4 は過去の調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(4) 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと

問4 今後、男女がともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。【○印は3つまで】

【図表 4-1 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと】



◆「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」などが上位に

男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なことについて、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が39.0%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(37.4%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(36.8%)、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」(26.4%)、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」(25.8%)などの順となっている。

性別にみると、男女ともに「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」（女性：39.7%、男性：39.0%）が最も高くなっている。また、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」は女性（29.8%）が男性（20.0%）を9.8ポイント、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」は男性（33.8%）が女性（21.8%）を12.0ポイント、「家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」は女性（27.5%）が男性（19.7%）を7.8ポイント、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」は男性（23.3%）が女性（16.5%）を6.8ポイント、「女性が経済的に自立すること」は女性（13.4%）が男性（7.5%）を5.9ポイント上回っている。

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、女性は20歳未満から40代、男性は20歳未満から50代までは、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」、女性50代、60歳以上と男性60歳以上は「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が最も高くなっている。また、女性20代は「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が6割を超え非常に高くなっている。

【図表 4-2 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと（性・年齢別）】

(単位: %)

		1位		2位		3位	
女性	20歳未満	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	71.4	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	42.9	家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること 夫が家事などをすることに妻が協力すること	35.7
	20代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	64.3	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	35.7	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	32.1
	30代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	51.7	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	34.8	家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること	31.5
	40代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	43.8	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	36.3	男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	30.8
	50代	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	46.1	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	45.5	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	32.5
	60歳以上	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	45.0	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	37.3	男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	32.3
男性	20歳未満	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	46.7	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	33.3	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること 男性の男女共同参画に対する関心を高めること	26.7
	20代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	56.4	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	48.7	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	41.0
	30代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	56.0	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	48.0	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	46.0
	40代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	44.3	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	43.2	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	34.1
	50代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	43.6	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	41.5	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	40.4
	60歳以上	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	41.0	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	36.7	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	28.7

<地域別>

備前県民局管内は「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」、備中県民局管内、美作県民局管内は「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も高くなっている。

【図表 4-3 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと（地域別）】

(単位: %)

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	41.1	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	37.5	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	39.9
2位	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	40.2	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	36.9	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	39.3
3位	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	35.3	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	35.2	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	36.1

<過去の調査との比較>

過去の調査と比較すると、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」は前回2位から1位に上がり、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」は前回1位から2位に下がっている。H16年調査から今回調査にかけて、上位3位までは順序が入れ替わるものの内容に大きな違いはない。

【図表 4-4 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと（過去の調査との比較）】

(単位: %)

	R1年		H26年		H21年		H16年	
1位	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	39.0	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	38.7	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	38.1	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	39.6
2位	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	37.4	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	37.7	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	37.4	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	37.5
3位	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	36.8	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	34.0	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	34.8	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	34.9